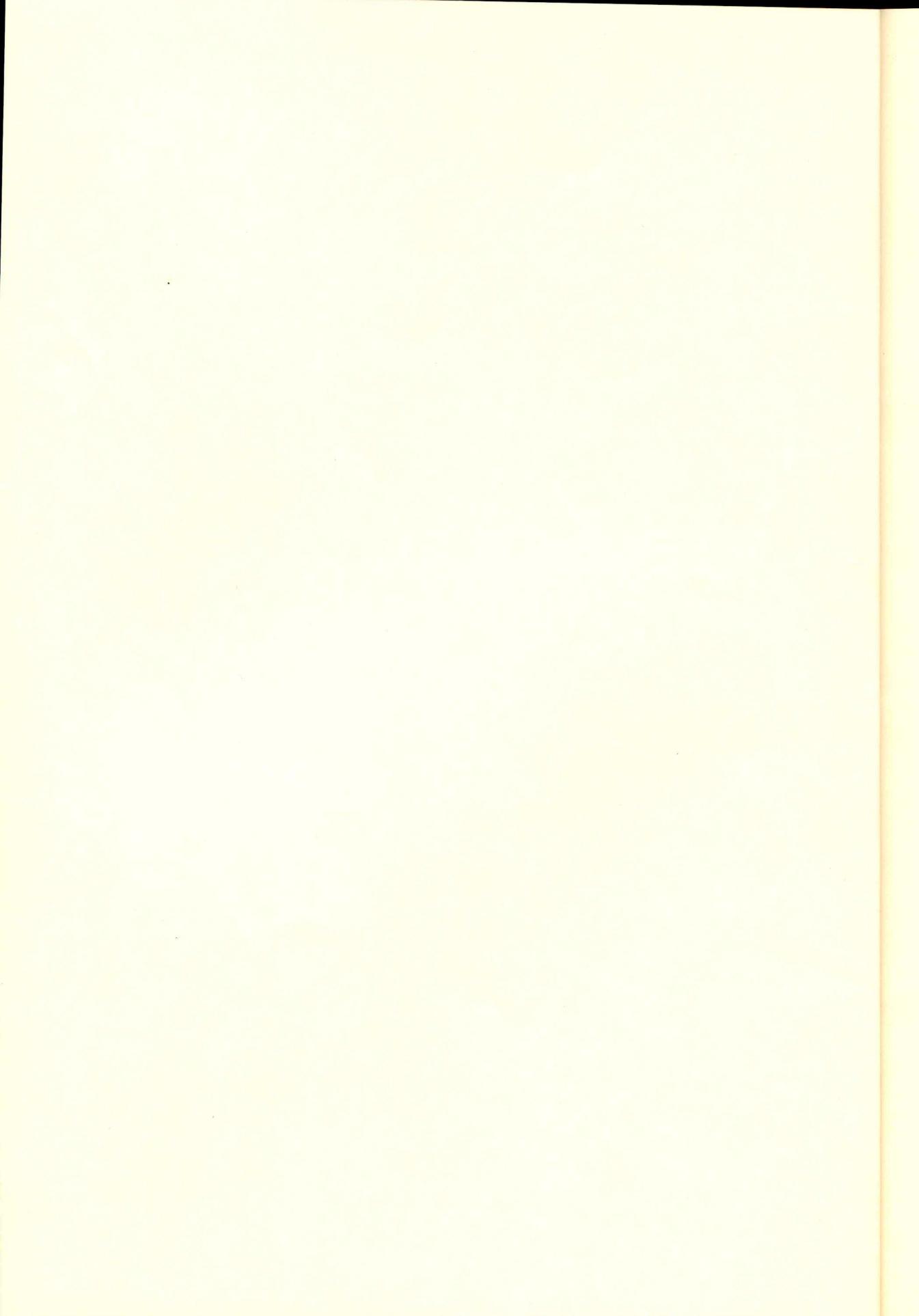


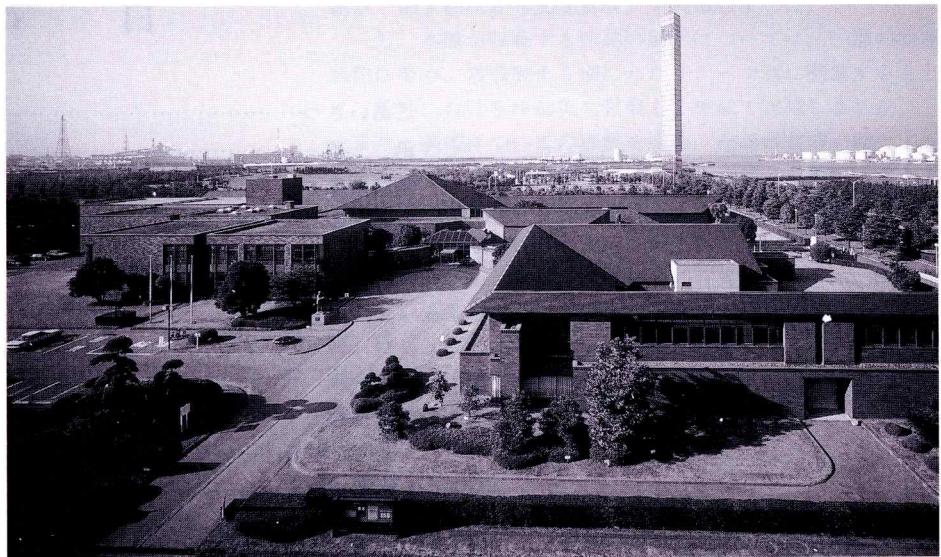
みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報

平成 2 年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART





千葉県立美術館外観

目 次

ごあいさつ.....	1
沿革.....	2
美術館誌.....	3
事業一覧.....	4
展示事業.....	6
常設展.....	7
特別展.....	15
企画展.....	20
普及事業.....	26
教育普及.....	27
情報資料室.....	30
刊行物一覧.....	34
活動協力.....	35
収集事業.....	39
収蔵資料.....	40
管理運営.....	42
機構.....	43
利用状況.....	45
展示室利用団体.....	46
施設.....	50
関係法令等.....	54
平成3年度主要事業.....	55
平成3年度職員.....	56
利用案内.....	57

ごあいさつ

平成2年度における千葉県立美術館活動の実績を年報としてまとめました。

本館は、昭和49年の開館以来の運営方針であります「みる・かたる・つくる」を基本として、総合的に展開して、県民の美術的要請にこたえるよう努めております。

本年度も、地域に密着した美術館として、房総ゆかりの日本画家である石井林響を中心とした「石井林響をめぐる画家たち」、あるいは書家の「鈴木方鶴展」を開催し、その業績を顕彰しました。また同時に、国際的視野に立って、外国の優れた美術作品を鑑賞する機会として、「マリー・ローランサン」の開催、更には全国的な公募展として、昭和58年度第1回展に引き続き「第2回浅井忠記念賞展」を実施しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、一層の充実、強化に努め、常設展を5期にわたりテーマ別に開催するとともに、館外における移動美術館展も2地域で実施しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、特別展、企画展に関連づけて美術講演会を開催するとともに、美術の各分野にわたる実技講座も実施し、増加の一途をたどる県民の美術創作への意欲に対応してまいりました。

さらに、本館が収蔵すべき作品の収集については、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得つつ、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関及び各団体並びに県民の皆様の御指導と御支援をお願いいたします。

平成3年4月

千葉県立美術館長

福田 誠

沿革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月に増築工事の展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日	第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる（委員15名）	昭和50年2月21日	管理棟杭工事着工	昭
昭和45年1月19日	県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される	昭和50年3月13日	管理棟建築工事請負契約議案可決される	昭
昭和45年7月24日	建設地として千葉公園に内定する	昭和50年3月16日	管理棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）	昭
昭和45年11月12日	第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる（委員10名）	昭和51年2月20日	管理棟建築工事竣工	昭
昭和46年3月31日	千葉公園内の美術館基本構想なる	昭和51年3月2日	管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する	昭
昭和46年6月24日	体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる 代案として千葉市中央港埋立地が提示される	昭和51年6月7日	寄附によって、正面玄関に植栽を行う	平
昭和47年1月5日	建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する	昭和52年3月12日	彫刻の屋外展示をはじめる	平
昭和47年3月31日	基本設計完了する（株式会社大高建築設計事務所）	昭和52年4月10日	展示棟の一室に美術普及室を開設する	平
昭和47年7月31日	展示棟 第1期工事の実施設計完了する	昭和53年1月18日	外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる	平
昭和47年9月21日	展示棟杭工事着工	昭和53年2月21日	美術普及棟の準備会が発足する	平
昭和47年10月13日	展示棟建築工事請負契約議案可決される	昭和53年10月17日	債務負担行為によって美術普及棟建築予算がつく	平
昭和47年12月10日	展示棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）	昭和53年11月18日	浅井忠像 完成除幕式	平
昭和48年4月1日	文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる	昭和53年11月30日	美術普及棟実施設計完了する	平
昭和48年11月30日	管理棟（第2期工事）の実施設計完了する	昭和54年1月8日	美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する	平
昭和49年3月31日	展示棟建築工事竣工	昭和54年3月5日	県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される	平
昭和49年4月1日	千葉県立美術館発足する（職員14名）	昭和54年3月22日	県民アトリエ棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）	平
昭和49年10月23日	開館記念式典を行う	昭和55年2月29日	県民アトリエ棟建築工事竣工	平
昭和49年10月24日	開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める	昭和55年3月16日	県民アトリエ棟完成記念講演会	平
		昭和55年4月1日	千葉県美術品取得基金条例施行される	平
		昭和55年9月9日	県民アトリエ棟情報資料室を開設する	平
		昭和58年7月29日	美術普及コーナーを開設する	平
		昭和58年11月12日	開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する	平
		昭和61年3月25日	展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化	平
		昭和61年4月10日	入口門扉4ヶ所設置	平
		昭和61年4月23日	美術館西側沿道寄りの生垣植栽	平
		昭和61年8月12日	講堂浸水防止工事	平
		昭和62年3月25日	機械室増築基本設計及び展示棟、収蔵庫、機械室増築工事実施設計完了する	平

平成2年度美術館誌

昭和62年10月15日	展示棟、収蔵庫、機械室増築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）	4月1日	辞令交付 常設収蔵作品展第Ⅰ期（7月15日まで）
昭和63年5月20日	受水槽設備改修工事（地上式）着工	5月8日	洋画講座1（5月24日まで 日数10日） 23日 版画講座1（6月8日まで 日数12日）
昭和63年8月31日	受水槽設備改修工事（地上式）竣工	6月9日	特別展「石井林馨をめぐる画家たち」（7月15日まで）
昭和63年8月31日	展示棟、収蔵庫、機械室増築工事竣工	12日	陶芸講座1（9月14日まで 日数9日）
平成元年2月28日	増築展示棟周辺芝張工事竣工	16日	第1回美術講演会
平成元年4月1日	普及課が新設され、3課となる	19日	日本画講座（7月6日まで 日数12日）
平成元年4月20日	開館15周年記念特別展「房総と近代美術」を開催する	7月7日	第2回美術講演会
平成元年9月11日	空調機改修工事実施設計完了する	17日	常設収蔵作品展第Ⅱ期（9月9日まで）
平成2年9月29日	収蔵庫（1・2）冷凍機改修工事着工	8月7日	第1回美術館調査研究員会議
平成2年11月7日	案内標識改修工事着工	28日	洋画講座2（9月9日まで 日数10日）
平成3年1月31日	収蔵庫（1・2）冷凍機改修工事竣工	9月13日	企画展「鈴木方鶴展」（10月14日まで）
平成3年2月20日	案内標識改修工事竣工	18日	外構整備検討委員会
		19日	書芸講座1（9月22日まで 日数3日）
		22日	第3回美術講演会
		10月23日	陶芸講座2（1月11日まで 日数9日）
		25日	外構整備検討委員会
		11月3日	彫刻講座（11月23日まで 日数9日）
		14日	外構整備検討委員会 常設収蔵作品展第Ⅲ期（12月24日まで）
		16日	企画展「第2回浅井忠記念賞展」公募作品搬入（11月18日まで）
		19日	企画展「第14回千葉県移動美術館」（八日市場市立公民館、12月2日まで）
		27日	書芸講座2（11月29日まで 日数3日） 版画講座2（12月13日まで 日数12日）
		29日	企画展「第2回浅井忠記念賞展」審査会
		12月4日	企画展「第14回千葉県移動美術館」（栄町役場町民ギャラリー、12月18日まで）
		10日	企画展「第2回浅井忠記念賞展」入選者発表
		1月5日	企画展「第2回浅井忠記念賞展」授賞式・オープニングセレブション
		6日	企画展「第2回浅井忠記念賞展」（2月11日まで） 常設収蔵作品展第Ⅳ期（2月11日まで）
		19日	第4回美術講演会
		2月16日	特別展「マリー・ローランサン」（3月24日まで） 常設収蔵作品展第Ⅴ期（3月31日まで）
		20日	第2回美術館調査研究員会議
		23日	第5回美術講演会

事業一覧

太字は本館主催展

月	み る	かたる	つくる
4	常設収蔵作品展 I 第27回全日本綜合書道大展覧会 第14回鳳聲会書作展 第60回郷陽会展 第10回千葉美術工芸展 第17回千葉新協展 武藏野美大校友会千葉支部展 第16回歩会彫刻展	4/1~7/15 4/10~15 4/17~22 4/17~22 4/24~5/6 4/24~30 4/24~30 4/24~5/6	
	第21回表美展 第8回日中友好書道展覧会 第2回日本童謡の書展 第14回墨の県展	5/2~6 5/8~13 5/8~13 5/15~20	
	第35回二科会千葉支部展 第16回貌展 日本書道ペン字教育会 創立30周年記念選抜展	5/22~27 5/22~27 5/29~6/3 5/29~6/3	
	第13回千葉一陽展		洋画① 5/8~24(10日間)
			版画① 5/23~6/8(12日間)
	第30回千葉市アマチュア美術展 第5回日本画四季展	6/5~10 6/5~17	
	特別展「石井林響をめぐる画家たち」 第15回関東全展 千葉幼児美術展	6/9~7/15 6/12~17 6/12~17	
6	第12回新槐樹社千葉県支部展 千葉二紀展 千葉水彩展 第37回千葉県書道協会展 第17回千虹会日本画展 第34回千葉県小・中学校書写展	6/19~24 6/19~24 6/19~24 6/26~7/1 6/26~7/1 6/26~7/1	美術講演会(1) 6/16
	第18回水彩連盟千葉支部展 第8回明日を拓く教育美術展	7/3~8 7/3~8	陶芸① 6/12~9/14(9日間)
	第19回千葉市勤労者文化展 第13回精銳展	7/3~8 7/3~8	日本画 6/19~7/6(12日間)
	第22回千葉市水墨画同好会連合会展 常設収蔵作品展 II	7/10~22 7/21~10/14	④洋画① 6/22~28(6日間)
	第15回葉美会展 第72回習美会初夏大作展	7/24~29 7/24~29	
	日本水彩画会第6回千葉県支部展 第24回漱雲会全国書道展	7/24~29 7/24~29	④洋画② 7/24~29(6日間)
	第10回ちば産経現代洋画展	7/31~8/12	
8	第19回写真千葉県展 第10回日本春秋書院千葉県書道展 千葉県市町村職員共済組合文化展 第20回いてふ会彫刻展	8/14~26 8/14~19 8/14~19 8/14~26	
	第11回龍峠書道会千葉県人展 第7回千葉中美展	8/21~26 8/21~26	④デッサン① 8/22~26(4日間)
	第18回千葉市教職員美術展覧会	8/28~9/2	洋画② 8/28~9/9(10日間)
	第23回千葉県高校合同写真展	8/28~9/2	
	第20回新構造千葉支部展	8/28~9/2	

月	み る	か た る	つ く る
9	第30回白扇書道会展 第13回千葉等迦展 第13回千葉県写真展覧会 第28回新世紀美術協会千葉支部展 企画展「鈴木方鶴展」 第40回千葉デザイン展 第22回千葉現展 第6回日本書道学会千葉県連展 第33回千葉市小中養護学校 児童生徒総合展覧会	$\frac{9}{4} \sim 9$ $\frac{11}{11} \sim 16$ $\frac{11}{11} \sim 24$ $\frac{11}{11} \sim 16$ 9/13～10/14 $\frac{18}{18} \sim 24$ $\frac{18}{18} \sim 24$ $\frac{18}{18} \sim 24$ $\frac{26}{26} \sim 30$	美術講演会(3) $\frac{9}{22}$ 書芸① $\frac{19}{19} \sim 22$ (3日間)
10	千字会書展 第37回千葉県勤労者美術展 第10回二科会写真部千葉支部展 第22回ファンシー洋画展 第17回文化書道連合会公募展覧会 ダネラ・デコパージュ展 第42回千葉県美術展覧会 (県展)	$\frac{2}{2} \sim 7$ $\frac{2}{2} \sim 7$ $\frac{2}{2} \sim 7$ $\frac{9}{9} \sim 14$ $\frac{9}{9} \sim 14$ $\frac{9}{9} \sim 14$ $\frac{20}{20} \sim \frac{11}{11}$	陶芸② $\frac{23}{23} \sim \frac{11}{11}$ (9日間) ④デッサン② $\frac{25}{25} \sim 28$ (4日間)
11	常設収蔵作品展Ⅲ 千葉県高校芸術祭「美術・工芸・書道作品展」 企画展「第14回千葉県移動美術館」 (八日市場市) 11/20～12/2 第35回こども県展	11/14～12/24 $\frac{4}{4} \sim 25$ 11/20～12/2 $\frac{27}{27} \sim \frac{29}{29}$	彫刻 $\frac{3}{3} \sim 23$ (12日間) 版画② $\frac{27}{27} \sim \frac{23}{23}$ (12日間) 書芸② $\frac{27}{27} \sim 29$ (3日間)
12	企画展「第14回千葉県移動美術館」(栄町) 12/5～18 今日の美術を考える会展 明るい社会づくりポスタークール展	12/5～18 $\frac{1}{1} \sim 19$ $\frac{1}{1} \sim 16$	④洋画③ $\frac{1}{1} \sim 8$ (6日間)
1	企画展「第2回浅井忠記念賞展」 常設収蔵作品展Ⅳ 第26回登龍社・宮坂会書作展 第18回富士百景写真展 第18回千葉書壇秀抜・新進展 千葉市観光絵画と写真コンクール展 第16回子ども造形展 第8回千葉県医師会美術展 第24回千葉県老人クラブ作品展 千葉大学教育学部美術科卒業制作展 第25回千葉大学学生書道展 千葉市小中養護学校児童生徒書写展	1/6～2/11 1/6～2/11 $\frac{8}{8} \sim 13$ $\frac{8}{8} \sim 13$ $\frac{15}{15} \sim 20$ $\frac{22}{22} \sim 27$ $\frac{22}{22} \sim 27$ $\frac{22}{22} \sim 27$ $\frac{29}{29} \sim \frac{2}{2}$ $\frac{29}{29} \sim \frac{2}{2}$ $\frac{29}{29} \sim \frac{2}{2}$	美術講演会(4) $\frac{19}{19}$ ④洋画④ $\frac{27}{27} \sim \frac{24}{24}$ (6日間)
2	群鷗書人展 第6回書星選抜展 第43回千葉県小中高校書初展 第14回唱和会書展 第16回千葉県民写真展 幕張北高校書道卒業制作展 特別展「マリー・ローランサン」 常設収蔵作品展Ⅴ 和洋女子大学書道展 第22回千葉市民美術展	$\frac{5}{5} \sim 11$ $\frac{5}{5} \sim 11$ $\frac{5}{5} \sim 11$ $\frac{13}{13} \sim 17$ $\frac{13}{13} \sim 17$ $\frac{13}{13} \sim 17$ 2/16～3/24 2/16～3/31 $\frac{19}{19} \sim 24$ $\frac{26}{26} \sim \frac{17}{17}$	美術講演会(5) $\frac{23}{23}$
3	第38回書星教育部展 第20回千葉県大学美術連盟展	$\frac{19}{19} \sim 24$ $\frac{19}{19} \sim 24$	

展 示 事 業

常設収蔵作品展を5期に分けて開催し、各テーマに基づいて展覧したほか、特設コーナーを設けて本館収蔵の優品などを広く公開した。

特別展としては、「石井林響をめぐる画家たち」「マリー・ローランサン」を開催した。

企画展としては、「房総の美術家シリーズ－20－鈴木方鶴展」「第2回浅井忠記念賞展」を開催したほか、「第14回千葉県移動美術館」を八日市場市立公民館と栄町役場町民ギャラリーにおいて開催した。

常 設 展

常設 収蔵作品展（第Ⅰ期）

常設収蔵作品展第Ⅰ期は、3コーナーに分けて展示した。「人物の表現」では、日本画・洋画・彫刻・工芸・版画の各分野の作家によって表現された「人物」の魅力を、「新収蔵作品」では、本館で新たに収蔵した作品を、「収蔵作品名品」では、特に鑑賞の要望の高い作品の数々を、前期と後期（「特設コーナー」と改称）に分けて紹介した。

会期（前期） 平成2年4月1日（日）～6月3日（日） 55日間

（後期） 平成2年6月5日（火）～7月15日（日） 36日間

展示点数 157点

入場者数 53,040人

出 品 目 錄

「人物の表現」

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
〈日本画〉							
1	浅井 忠	田 植 之 図	1889	1	浅井 忠	は た ら く 婦 人	
2	〃	琵 琶 法 師	1890～97頃	2	浅井 真	A 嫩 像	1931
3	〃	ほ し か き	〃	3	〃	習 作 5	1959～60頃
4	〃	盜 賊	1902～07	4	〃	裸 婦 C	〃
5	〃	人 物 風 俗 図	〃	5	安藤 信哉	軍 手	1967
6	〃	韓 信 図	〃	6	〃	室 内	1968
7	〃	參 詣	1902～07頃	7	池田 満寿夫	作 品	1958
8	〃	当 世 風 俗 五 十 番 歌 合 (2番)	1907	8	石 井 柏 亭	病 児	1904
9	〃	〃 (7番)	〃	9	石 橋 武 治	泥 か ぶ ら	1959
10	〃	〃 (15番)	〃	10	遠 藤 健 郎	朝 市	1975
11	〃	〃 (28番)	〃	11	熊 谷 文 利	佳 境 に 入 る 女 祈 禱 師	1978
12	〃	カルタ と り の 女 児		12	〃	薬 を 飲 む 女 祈 禱 師	1979
13	五十嵐 幹	華	1976	13	黒 田 重 太 郎	浴 後	1927
14	稻 木 皓 人	更 衣	1973	14	櫻 井 慶 治	フ ラ ン ス の 女 性	1987
15	大 森 運 夫	灯 翁 肅 宴	1970	15	笛 岡 一 了	放 蕩 息 子 の 帰 宅	1960
16	小 野 具 定	漁 村	1975	16	霜 鳥 之 彦	ロ シ ア の 女	1923
17	高 畑 郁 子	メ ス テ ィ ー ソ の 女 達	1977	17	須 田 国 太 郎	デ ッ サン (膝 に 脇 を 置 く 裸 婦)	1940～46
18	立 石 秀 春	九 十 九 里	1987	18	〃	〃 (腰 か け る 裸 婦)	
19	富 取 風 堂	斜 陽 (夏 す が た 其 一)	1936	19	田 中 志 奈 子	〃 (笠 を 持 つ 女)	1905
20	〃	夜 (〃 其 二)	〃	20	田 中 善 之 助	パ リ の 女	1921
21	村 松 乙 彦	化 糟	1947	21	鶴 田 吾 郎	濟 州 島 に て	1935
22	横 尾 芳 月	夕 糟	1981	22	〃	婦 人 像	〃
23	若 木 山	常 陸 乙 女	1948	23	〃	女 人 像	1946
24	渡 辺 学	川 口	1976	24	〃	あ く び	
25	〃	下 総 の 海 女		25	都 鳥 英 喜	婦 人 像	1919頃
				26	内 藤 隆	緑 衣 の 婦 人 像	1961

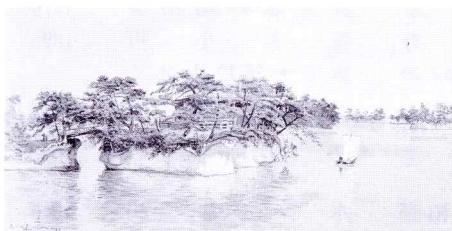
No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年				
〈洋 画〉											
1	クールベ	※眠 る 人	1853	20	浅井 忠	※藁 屋	根				
2	〃	※雪 の 中 の 小 鹿	1869頃	21	梅原龍三郎	※竹 窓 読 書	岡				
3	コロ一	※フォンテンブローの風景	1830~35頃	22	〃	※皇	居				
4	〃	※ナポリ近郊の思い出	1860~65頃	23	安井曾太郎	※熱 海 附 近	1929				
5	ジャック	※森 の 中	1871	〈彫 刻〉							
6	ディアズ	※森 の 中 の 農 婦	1868	1	高村光太郎	※薄 命 児 男 子 頭 部	1905				
7	ドービニー	※ヴァルモンドワの小川	1847	2	〃	※ 猪	1905頃				
8	トロワイヨン	※河 辺 の 道	1860~65頃	3	〃	※裸 婦 座 像	1916頃				
9	フォンタネージ	※水 浸 み 場 風 景	1863頃	4	〃	※ 手	1918				
10	〃	※木 立	1868~72頃	5	〃	※大 倉 喜 八 郎 の 首	1926				
11	〃	※池 と 樹 木	1870~72頃	6	〃	※野 兎 の 首	1945~52				
12	〃	※風 景 1		7	〃	※十和田裸婦像のための中型試作	1953				
13	〃	※ 〃 2		※は後期も展示							
14	〃	※牛 を 追 う 農 婦		後期追加展示							
15	〃	※森 の 空 地 の 農 婦		「特設コーナー」							
16	〃	※羊 飼 い の 少 女		〈日本画〉							
17	〃	※川 辺 の 二 頭 の 牛		1	富取風堂	漁 村 の 初 夏	1942				
18	ミ レ 一	※垣根に沿って草を食む羊	1860頃	2	東山魁夷	秋 深	1975				
19	ル ゾ 一	※バルビゾンの農場									



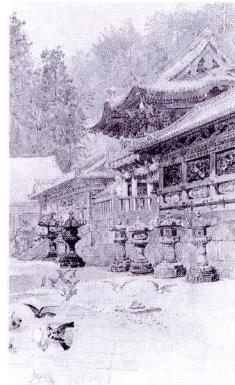
渡辺 学「川口」



中西利雄「四人の女」



ワーグマン「松島風景」



五百城文哉「日光」

常設 収蔵作品展（第II期）

常設収蔵作品展第II期は、3コーナーに分けて展示した。「水のある表現」では、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・版画の各分野の作家によって表現された『水』の魅力を、「特設コーナー」では、特に鑑賞の要望の高い作品を、「金工作品コーナー」では、金工の作品に焦点をあて、様々な技法による作品を、前期と後期に分けて紹介した。

会期(前期) 平成2年7月21日(土)～9月9日(日) 44日間

(後期) 平成2年9月13日(木)～10月14日(日) 28日間

展示点数 123点

入場者数 45,275人

出 品 目 錄

「水のある表現」

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
〈日本画〉							
1	石井林響	釣人	1927	10	円城寺昇	岩	
2	岩崎巴人	波涛岩礁図	1974	11	大久保作次郎	海水浴帰り	1917
3	大田歳北	海	1979	12	"	風	1955
4	小野具定	遠くなつた海	1974	13	国松桂溪	仏国トルドンヌ	1923
5	古城江觀	ヴェニス所見	1969	14	小堀進	霞ヶ浦	1973
6	木島桜谷	雨中山水之図		15	"	逆光	1974
7	後藤純男	山門雨後	1974	16	斎藤捷夫	海辺の光景	1983
8	篠崎之男	瀧	1969	17	桜田精一	太海	
9	菅沢幸司	利根風景		18	澤部清五郎	ハドソン河の朝靄	1912
10	関主税	晨	1984	19	三田康	廃墟	1965
11	田岡春径	幽	1969	20	白滝幾之助	海	1939
12	時田直善	夕	1954	21	"	テームス河	1953
13	富取風堂	暮	1962	22	菅谷元三郎	沼風景	1935
14	"	雨の花	1963	23	高橋規矩治郎	漁船	1965
15	横尾芳月	智積院の庭	1952	24	椿貞雄	岩	1936
16	吉岡堅二	濤	1939	25	鶴田吾郎	アムールのラゴエンチエスク	1919
17	若木山	早春	1969	26	寺田政明	犬吠灯台の見える外川港	1985
18	"	波上海女図	1953	27	都鳥英喜	舟小屋	1928
				28	"	巴里郊外サンクール	1920
				29	富田通雄	静かな日	1937
〈洋画〉							
1	浅井真	四月の海	1959	30	中西利雄	外房風景	1936
2	"	大海海岸	1960	31	西川純	保津峡	
3	"	雪と石	1964	32	不破章	奥鬼怒の湯治場	1976
4	荒谷直之介	白船入港(マラガ)	1962	33	松岡寿	森と小川	1895
5	石井柏亭	舟に居る人	1913	34	無縁寺心澄	銚子大新楼上にて	
6	石川欽一郎	水辺		35	ワーグマン	松島風景	1889
7	石橋武治	筑波遠望	1953	〈版画〉			
8	"	水辺	1966	1	石井柏亭	木印	場沼
9	"	水郷		2	"	幡	1914

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
3	石井柏亭	佐 原	1917	15	浅井 忠	※藁 屋 根	1887頃
4	瑛 九	銅版画集 I 『波のたわむれ』 10.波のたわむれ	1954	16	梅原龍三郎	竹 窓 読 書 団	1937
5	小野具定	北 の 海	1977	17	"	皇 居	1980
6	東山魁夷	リトグラフィ集 『冬の詩』 3.湖岸	1979	18	中西利雄	※南 仏 風 景	1930
7	深沢幸雄	銅版画集 『ボーダーレル詩集の春より』 3.人と海	1971	19	"	※曇り日の離宮と駅	1947
				20	安井曾太郎	熱 海 附 近	1929
〈彫 刻〉							
1	原 武典	水の中の太陽 ('81)	1981	〈彫 刻〉			
2	"	" ('82)	1982	1	高村光太郎	手	1918
〈工 芸〉							
1	青木滋芳	黒 潮	1977	2	"	裸 婦 座 像	1916頃
2	神谷紀雄	鉄絵銅彩あやめ紋大鉢	1986	3	"	大倉喜八郎の首	1926
3	鈴木治平	条紋金彩花瓶	1977	「金工コーナー」			
4	"	湿 原 の 詩	1985	1	会田富康	※蓋のある青銅壺	1965
5	津田信夫	海	1927	2	大須賀選	※作品63~7(室内灯ろう)	1963
6	"	閑 鱗 上 下	1941	3	大須賀喬	※昆蟲文飾皿	1986
〈書〉							
1	浅見錦龍	九 十 九 里	1960	4	鹿島一谷	※布目象嵌つなぎ文南鎌水指	1981
2	種谷扇舟	故郷之山河	1971	5	香取秀真	※筋入花瓶	
「特設コーナー」							
〈日本画〉							
1	富取風堂	漁 村 の 初 夏	1942	6	"	※鳳凰文様花瓶	
2	"	花 籠	1954	7	"	※笑獅子香炉	
3	東山魁夷	春 雪	1973	8	"	※菊文	
4	"	秋 深	1975	9	"	※鉄茶釜	
〈洋 画〉							
1	コ ラ ン	田 園 詩	1903	10	"	※千本松文釜	
2	コ ロ 一	ナポリ近郊の思い出	1860~65	11	香取正彦	※臘銀玉錯花瓶	1979
3	ク ル ベ	眠 る 人	1853	12	関谷四郎	※銅 鉄 壺	1974
4	ドービニー	ヴァルモンドワの小川	1847	13	津田永寿	※幾 星 霜	1970
5	ディアズ	森 の 中 の 農 婦	1868	14	"	※鳥 の 花 器	1979
6	ファンタネージ	木 立	1868~72	15	津田信夫	※老子	
7	"	池 と 樹 木	1870~72	16	"	※胡孫遊目	1935
8	"	牛 を 追 う 農 婦		17	"	※鳳翔薰爐	1937
9	"	森 の 空 地 の 農 婦		18	"	※荒下妖麗	1942
10	ジャック	森 の 中	1871	19	"	※月 下 妖 麗	
11	ローランス	カルカッソヌの幽閉者の解放		20	"	※玉鱗 媚	
12	ミ レ 一	垣根に沿って草を食む羊	1860頃	21	"	※兎	
13	ル ソ 一	バルビゾンの農場		22	"	※水 盤	
14	トロワヴィヨン	河 辺 の 道	1860~65	23	信田 洋	※黄銅花いらす	1961
				24	宮田宏平	※生命の透間風	1982

※は前期のみ展示

「特設コーナー」(後期追加展示)

〈洋 画〉

1	ク ル ベ	雪 の 中 の 小 鹿	1869頃
2	浅井 忠	農 婦	1902

常設 収蔵作品展（第III期）

常設収蔵作品展第III期は、「特設コーナー」を設け、特に鑑賞の要望の高い作品を紹介した。

会 期 平成2年11月14日（水）～12月24日（月） 36日間

展示点数 27点

入場者数 32,756人

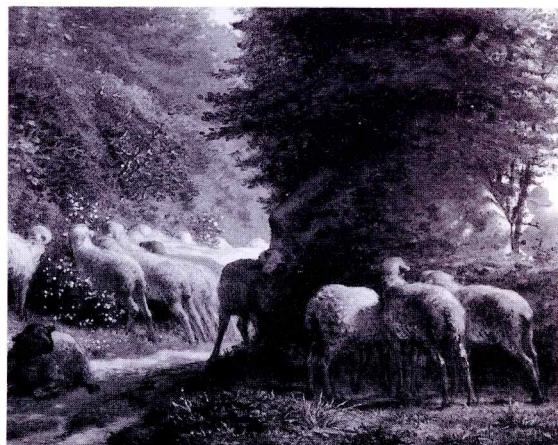
出 品 目 錄

「特設コーナー」

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年				
〈日本画〉											
1	富取風堂	葛 西 風 景	1937	10	ファンタネージ	水汲み場風景	1863頃				
2	〃	花	1953	11	クールベ	眠る人	1853				
3	東山魁夷	秋 深	1975	12	〃	雪の中の小鹿	1869頃				
4	〃	春 雪	1973	13	コロ	ファンテンブローの風景	1830～35頃				
				14	〃	ナポリ近郊の思い出	1860～65				
				15	ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃				
				16	トロワ・リヨン	河辺の道	1860～65				
〈洋 画〉											
1	小堀 進	山	1965	17	ルソー	バルビゾンの農場					
2	〃	南欧の丘	1962	18	ディアズ	森の中の農婦	1868				
3	黒田重太郎	浴 後	1927	19	ドービニー	ヴァルモンドワの小川	1847				
4	梅原龍三郎	竹窓 読書図	1937	20	ジャック	森の中	1871				
5	石井柏亭	聖フランチェスコ寺院	1923	〈彫 刻〉							
6	浅井 忠	農 婦	1902	1	高村光太郎	十和田裸婦像のための中型試作	1953				
7	ファンタネージ	木 立	1868～72	2	〃	手	1918				
8	〃	池と樹木	1870～72	3	〃	裸婦座像	1916頃				
9	〃	牛を追う農婦									



東山魁夷「春雪」



ミレー「垣根に沿って草を食む羊」

常設 収蔵作品展（第IV期）

常設収蔵作品展第IV期は、「浅井忠コーナー」を設けて、浅井忠の作品を中心に、スケッチブックや下絵、書簡など関係資料を展示した。

会 期 平成3年1月6日(日)～2月11日(月) 32日間

展示点数 112点

入場者数 25,805人

出 品 目 錄

「浅井忠コーナー」

No.	作 品 名	制作年	No.	作 品 名	制作年
〈日本画〉					
1	琵 琶 法 師	1902～07	17	男 性 裸 像	1901
2	もろこしと鳳仙花	1904～07	18	フォンテンブローの森	〃
3	人 物 風 俗 図	1902～07	19	洋 上 の 夕 陽	1902
4	盜 賊	〃	20	欧 州 市 場 風 俗	1903頃
5	当 世 風 俗 五 十 番 歌 合 セ 下 絵 2番	1907	21	東 宮 御 所 壁 飾 草 稿 (1)	1905
6	〃 7番	〃	22	曳 舟 通 り	1885
7	〃 15番	〃	23	鎌 倉 建 長 寺 (1)	〃
8	〃 28番	〃	24	少 女	1877
9	狂 女 (付 子 規 句)	1898頃	25	女 の 顔 (模 写)	1876～78
10	古 城 (〃)	〃	26	京 都 高 等 工 芸 学 校 の 庭	1903
11	欧 州 風 景	1902～03	27	老 母 像	1906
12	田 植 之 図	1898	28	帆 船 の 図	1907
13	ほ し か き	1890～07	29	磐 梯 山 の 図	1888
			30	農 農 家	1902
			31	婦 人 像	1907
			32	奈 良 郊 外	1903
1	平 壤 大 同 江 煉 光 亭	1894	33	中 津 岩 太 像	〃
2	金 州 城 南 門 外	1894～95	34	奈 良 横 横	1888
3	貌 子 窩 第 二 軍 司 令 部	〃	35	平 城 大 仏 鐘 横	〃
4	金 州 城 壁 上 家	〃	36	磐 梯 山 の 図	〃
5	農 家		37	印 藩 沼	1878頃
6	糸 を く る 女 ろ		38	風 景 (1)	〃
7	桶 と せ い ろ	1902～07	39	〃 (2)	〃
8	藁 屋 根	1887頃	40	鍛 治 橋	〃
9	母 の 肖 像	1899			
10	沢 入 駅	1884	〈工芸〉		
11	渓 流	〃	1	茶 器 「猿 蟹 合 戰 ノ 図」	1902～07
12	房 州 白 浜	1887	2	向 付 盤	〃
13	房 州 乙 浜 村	1888	3	急 須 A	〃
14	房 州 波 太 村	〃			
15	白 浜 風 景	〃	〈資料〉		
16	パ リ 公 園	1900～02	スケッチブック、教科書等56点		

常設 収蔵作品展（第V期）

常設収蔵作品展第V期は、「書コーナー」を設けて、多様な書の表現を紹介した。また、後期からは「特設コーナー」を併設し、特に鑑賞の要望の高い作品を追加展示した。

会期(前期) 平成3年2月16日(土)～3月10日(日) 20日間

〃(後期) 平成3年3月12日(火)～3月31日(日) 18日間

展示点数 21点

入場者数 48,978人

出 品 目 錄

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年
「書コーナー」							
1	浅見喜舟	太公有意垂釣	1983	14	中台邱園	盧綸詩	1986
2	浅見錦龍	古泉千樺の歌	1976	15	中村象閣	古泉千樺の歌	1972
3	江川碧潭	白雲青山詩		16	福田丞州	蘇東坡詩	1983
4	大石隆子	待君	1975				
5	金子聰松	視思明	1973				
6	小暮青風	万葉集東歌	1975				
7	小安花邨	バイロンの言葉	1966				
8	鱸松塘	七言古詩					
9	鈴木方鶴	一笑千山青	1984				
10	高澤南総	桃季争妍	1970				
11	高宮金陵	山部赤人歌					
12	種谷扇舟	故郷之山河					
13	千代倉桜舟	宗左近の歌	1988				

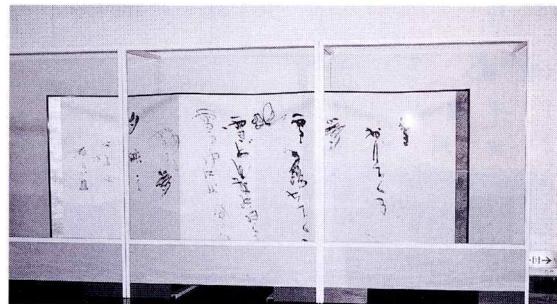
「特設コーナー」(後期追加展示)

〈洋画〉

1	浅井忠	藁屋根	1887頃
2	ミレ一	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
3	コロー	ナポリ近郊の思い出	1860～65

〈彫刻〉

1	高村光太郎	十和田裸婦像のための中型試作	1953
2	〃	手	1918



特 別 展

石井林響をめぐる画家たち

会 期 平成 2 年 6 月 9 日(土)～7 月 15 日(日) 32 日間

展示点数 183 点

入場者数 6,717 人

石井林響(1884～1930)は、千葉市下大和田町に生まれ、明治後半から昭和初期にかけ活躍した本県を代表する日本画家である。林響が活躍した時代は、日本美術院の創設、小会派の分立、文展の開設など日本画の革新運動がさかんに行われた時期にあたる。この情勢の中で、林響も革新運動のリーダーのひとりとして、美術史上にその名をとどめているにもかかわらず、作品は余り知られていない。

本展では、林響の生涯にわたる作品を展覧し、彼が日本画の革新に果たした功績を回顧するとともに、交友の深かった画家たちの作品も併せて紹介した。

石井林響をめぐる画家たち

特別展 『千葉県が生んだ日本画の大家』

平成 2 年 6 月 9 日(土)～7 月 15 日(日)



出 品 目 錄

No.	作 品 名	制作年	所 藏 者	No.	作 品 名	制作年	所 藏 者
「石井林響作品」							
1	春 夏 秋 冬	1903頃		25	瑞 鶴		千葉県立美術館
2	水 鏡			26	雛		千葉県立美術館
3	靈 泉	1905頃		27	夜 道 駆 人		千葉県立美術館
4	木 華 開 耶 姫	1906	千葉県立美術館	28	高 砂		県立千葉高等学校
5	童女の姿となりて	〃	東京都美術館	29	山 水		千葉県立美術館
6	靈 泉	〃		30	〃		
7	弘 法 大 師	1908	修 善 寺 町	31	白 映	1912	
8	弘 法 大 師(下絵)	〃		32	風 神 雷 神		千葉県立美術館
9	三 輪	〃		33	松 鴉		
10	三 輪(下絵)	〃		34	竹 林 吹 笛 美 人		千葉県立美術館
11	不 動 明 王			35	唐 美		
12	觀 音	1908		36	松 下 美		千葉県立美術館
13	蓬 島 孤 鶴	〃		37	觀 世 音 菩 薩		
14	東 方 脬		修 善 寺 町	38	高 士 觀 瀑		千葉県立美術館
15	松 下 睡 布 袋		〃	39	春 秋		〃
16	羅 浮 仙 女		千葉県立美術館	40	寒 山		山種美術館
17	桐 陰 網 蟬		修 善 寺 町	41	漁 樹		
18	春 風 駘 蕉		〃	42	梅 花 小 禽		千葉県立美術館
19	芙 蓉 秋 水		〃	43	紅 葉 白 頭 翁 鳥		
20	鶯 棲 穏 穏		〃	44	葦 に 鳥		千葉県立美術館
21	蘆 花 明 月		〃	45	白 閑 鳥		〃
22	波 に 鶴		〃	46	梅 家 書	1917	
23	李 太 白	1909		47	秋 鹿		
24	鬢 官 伴 紅 女			48	養 老 陽		
				49	朝		

No.	作	品	名	制作年	所蔵者	No.	作	品	名	制作年	所蔵者	No.	
50	弁	財	天		千葉県立美術館	98	松	林	富	岳		14	
51	蘇		武		"	99	漁			父		14	
52	日	の	出			100	月	下	高	士		14	
53	富		士			101	山	路	の	春		14	
54	松		月			102	雷			神		15	
55	連	落	ち			103	高			砂		15	
56	焚		火		清川記念館	104	春			山		15	
57	ま	ひ	る	1919		105	赤	松	白	鷺		15	
58	三		社	"		106	や	ま	び	こ	(小下絵)	15	
59	聖		母			107	雪		景	色	県立千葉高等学校	15	
60	天		女			108	ね		ず	み	1924		
61	梅	花	書	屋	千葉県立美術館	109	湖			畔		「開	
62	雨	後	浮	船	"	110	春	日	湖	畔		No	
63	漁					111	秋	日	湖	畔		く	
64	樹	下	石	上		112	山			路		1	
65	野	葡	蘿			113			鹿			2	
66		嵐			千葉県立美術館	114	浦	島	太	郎	岡	3	
67	冬	景	色		"	115	梅	花	井	泉	"	4	
68	崖	向	老	人		116	鹿			岡	1925	5	
69	夏			山		117	閑			人	清川記念館	6	
70		桜				118	水			汲		7	
71	達		磨			119		鳥				8	
72	竹	花	鳥			120	菅	公	幼	時		9	
73	葦	と	白	鳥		121	閑			人			
74	寒	山	拾	得		122	白		閑	鳥			
75	老	人	と	船		123	岩	魚	つ	り			
76	白	衣	の	老		124	閑	居	暮	靄			
77	釣		人	人		125	夕			月			
78	冬		田			126	舟			遊	千葉県立美術館		
79	寒	山	拾	得	1920	127	樹	上	童	子			
80	黒		猫	(小下図)		128	終	南	進	士	(鐘馗)		
81	池	中	双	鶴		129	鐘			馗	1925		
82	雨	中	筏	船		130	柿	二	仏	首	柑	1926	
83	総	南	の	旅	から	1921	山種美術館	131	瑞		鶴		
84		泉					132	布		袋			
85	た	そ	が	れ			133	秋	晚	帰	樵	1927	
86		瓢					134	松		林			
87	唐	獅	子		千葉県立美術館		135	蓬	菜	仙	境	1927	
88	鐘		旭		1921		136	福			神	"	
89	茅		屋	"			137	秋	林	帰	樵	"	
90	巨	松	小	禽			138	桃			源	千葉県立美術館	
91	老	松	白	鷺			139	寒	山	松	林		
92	仙	崖	汲	水			140	野	趣	春秋	二	岡	
93	老				県立千葉高等学校		141	寒	山	帰	樵	1927	
94	秋	山	帰	樵			142	釣			人	千葉県立美術館	
95	炭	を	焼	く			143	仙	山	朝	陽		
96	瓶		梅		山種美術館		144	野趣二題	(池中の舞)		1927	東京国立近代美術館	
97	瓶	と	枇	杷			145	"	(枝間の歌)	"	"		

No.	作 品 名	制作年	所 藏 者	No.	作 品 名	制作年	所 藏 者
146	池 中 の 舞 (下 絵)	1927		156	武 陵 桃 源	1928	
147	〃 (小下絵)	〃		157	帰 櫻	〃	
148	〃 (下 絵)	〃		158	渓 山 射 冬	〃	千葉県立美術館
149	枝 間 の 歌 (〃)	〃		159	閑 郷 柳 滝	〃	清川記念館
150	〃 (〃)	〃		160	秋 郊	〃	
151	恵 比 寿 大 黒			161	柳 亭 閑 談	〃	
152	蘭	1928		162	双 蛙 踊 る		
153	君 が 代	〃		163	老 梅 少 女	1929	
154	雪 の 小 池	〃		164	南 天	1930	
155	山 水	〃	千葉県立美術館	165	梅	〃	

その他資料

「関係作家作品」

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	所 藏 者
〈日本画〉				
1	橋本雅邦	竹 梅 図	1898	埼玉県立近代美術館
2	〃	月 下 群 雁 図		〃
3	島田墨仙	維 摩	1920	福井県立美術館
4	下村觀山	菊 慈 童	1909	宮城県美術館
5	〃	陶 淵 明	1914~17	福井県立美術館
6	平福百穂	青 山 白 雲	1919	宮城県美術館
7	山内多門	長 江 大 觀	1929	〃
8	勝田蕉琴	煙 る 小 雨	1922	福島県立美術館
9	今村紫紅	竹 取 翁	1912	横浜美術館

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	所 藏 者
10	今村紫紅	舟 遊	1913	横浜美術館
11	〃	獅 子	1911頃	
12	〃	三 猿	1924頃	
13	小林古径	攝 取	1905頃	福井県立美術館
14	〃	旅 路	1915	三重県立美術館
15	橋本関雪	後 赤 壁 図	〃	西宮市大谷記念美術館
16	安田敦彦	静 訣 別 之 図	1907頃	滋賀県立近代美術館
17	〃	小 倉 の 山	1930	三重県立美術館
18	前田青邨	大 久 米 命	1907	岐阜県美術館



—夢と哀愁の女流画家—
マリー・ローランサン

会 期 平成3年2月16日(土)～3月24日(日) 32日間
展示点数 116点
入場者数 34,340人

マリー・ローランサンは、パステルカラーと柔軟な曲線による詩情豊かな世界を創造した今世紀が生んだ最も優れた女流画家である。

近代絵画史上の激動の時代といわれた今世紀初頭、野獣派や立体派が台頭するなかで、ブラックやピカソらとの交流を通じ、彼らの影響を受けながら、様式や流行を超えた自由で独自の道を歩み続け、確固たる地位を築いた。

本展は、常に多くの人々に愛されるローランサンの作品を油彩、水彩、版画、挿絵本によって広く紹介し、その魅力を鑑賞する機会とした。



出 品 目 錄

No.	作 品 名	制作年	所 藏 者
「油 彩」			
1	自 画 像	1908頃	マリー・ローランサン美術館
2	サカナであるいはシリーナとギ列ト	1912頃	名古屋市美術館
3	犬を連れた婦人像	1914	群馬県立近代美術館
4	婦 人 像	1920	北海道立近代美術館
5	二羽の鳩と乙女	1921	
6	子供たちの輪舞	〃	株式会社ワコール
7	シンフォニーあるいは踊り子たちあるいは寄せ	1921	イセ文化基金
8	牝鹿と二人の女	1923	ひろしま美術館
9	お 城 の 生 活	1925	マリー・ローランサン美術館
10	小さな犬を抱いた若い女	〃	村 内 美 術 館
11	小 さ な 天 使 た ち	1927	
12	セレストあるいはトマール	〃	株式会社ワコール
13	バルコニーの二人の少女	〃	伊藤ハム株式会社
14	ば ら 色 の 帽 子 の 女	1929頃	笠間日動美術館
15	ニ コ ル・グ ル ー	1931	
16	橋の下のセイレンとその女たち	1932	伊藤ハム株式会社
17	ヴァランチーヌ・テッシエ	1933	
18	青衣の美少女(青い服を着た麗しいのアニエス)	1934	西宮市大谷記念美術館
19	O 嬢	1935	
20	若 い 女	1937	松 岡 美 術 館
21	白いむく犬と少女(犬と若女)	〃	
22	某 夫 人 の 肖 像	〃	
23	独	1938	伊藤ハム株式会社
24	三 人 の 娘	1943	北海道立近代美術館
25	マルセル・エラン	1943-45頃	マリー・ローランサン美術館
26	カトリーヌ・ジッド	1946	〃
27	扇をもつ若い女	1950頃	〃
28	ピ ク ニ ッ ク		川村記念美術館

No.	作 品 名	制作年	所 藏 者
29	三 人の バ レ リ ナ		岐 阜 県 美 術 館
30	転 倒		
31	小 さ な 犬 と 女		
32	青いドレスとばら色のスカーフの乙女		
33	女		伊藤ハム株式会社
34	帽子をかぶった若い女		松 岡 美 術 館
35	二 人 の 乙 女		伊藤ハム株式会社
36	横たわる若い女		
37	小 公 女		
「水 彩」			
1	犬 と 三 人 の 乙 女	1930-40頃	北海道立近代美術館
2	春 の 館		
3	二 人 姉 妹		
4	婦 人		
5	婦 人 像		
6	真珠のネックレスをした女		
7	三 人 の 少 女 た ち		
「版 画」			
1	女 の 大 き な 顔	1910	マリー・ローランサン美術館
2	エ ア の 尼 僧 院 長	1921	〃
3	甘 美 な 年	〃	〃
4	鏡	〃	〃
5	オートウイユのニンフ	〃	〃
6	曖昧なるバラスのための散文	〃	〃
7	一つの鐘しか聞かぬものは…	〃	〃
8	オ ル ガ	〃	〃
9	ス 一 フ ロ 街	〃	〃

No.	作 品 名	制作年	所 藏 者	No.	作 品 名	制作年	所 藏 者
10	夢 の 糸	1921	マリー・ローランサン美術館	43	右 向 き の 女 の 顔	1932	マリー・ローランサン美術館
11	友 愛 の 悲 歌	〃	〃	44	肩掛けをした女の顔	〃	〃
12	ジャック・ド・ラクルテルの肖像	〃	〃	45	左 向 き の 女 の 顔	〃	〃
13	牝鹿 (第4ステート)	1924	〃	46	不 安 な 若 い 女	1944	〃
14	コ ン サ ー ト	1926	〃	47	三 人 の 乙 女 た ち	〃	〃
15	口 シ ン ド	〃	〃	48	捨 て ら れ た 娘	〃	〃
16	白 鳥	〃	〃	49	若 い 女 と そ の 息 子	〃	〃
17	黄 色 い 服 の 婦 人	〃	〃	50	牧 歌	〃	〃
18	馬 に 乗 っ た 女	〃	〃	51	「みやびな宴」の屏絵	〃	〃
19	スペイン便り (1)	〃	〃	52	月 の 光	〃	〃
20	〃 (2)	〃	〃	53	パントマイム	〃	〃
21	〃 (3)	〃	〃	54	小 径	〃	〃
22	〃 (4)	〃	〃	55	伴 回	〃	〃
23	〃 (5)	〃	〃	56	スケートをしながら	〃	〃
24	〃 (6)	〃	〃	57	舟 あ そ び	〃	〃
25	〃 (7)	〃	〃	58	マ ン ド リ ン	〃	〃
26	〃 (8)	〃	〃	59	コ ロ ン ビ 一 ヌ	〃	〃
27	〃 (9)	〃	〃	60	低 声	で	〃
28	〃 (10)	〃	〃				
29	〃 (11)	〃	〃				
30	スペイン便り (1-a)	〃	〃				
31	〃 (2-a)	〃	〃	1	マリー・ローランサンの扇(普及本)	1922	マリー・ローランサン美術館
32	〃 (4-a)	〃	〃	2	〃 (特装本)	〃	〃
33	〃 (5-a)	〃	〃	3	イ ポ リ ッ ト の 死	1923	〃
34	〃 (8-a)	〃	〃	4	牝 鹿 (1)	1924	〃
35	ローズあるいは一度だけの恋の女	1930	〃	5	〃 (2)	〃	〃
36	ア リ ス と 大 失 態	〃	〃	6	スペイン便り	1926	〃
37	エ メ の 死	〃	〃	7	フィネットの冒険	1928	〃
38	マ リ ー の 夢 想	〃	〃	8	マ リ ア ナ	1932	〃
39	クリスチヌあるいは馬に乗る女	〃	〃	9	バ リ	1937年	1938
40	アンヌとペンギンたち	〃	〃	10	小 さ な 娘 た ち	1942	〃
41	ブ ー ブ ー	1931	〃	11	ア ン タ レ ス	1944	〃
42	アルペール・フランの肖像	1932	〃	12	み や び な 宴	〃	〃

「挿絵本」

1	マリー・ローランサンの扇(普及本)	1922	マリー・ローランサン美術館
2	〃 (特装本)	〃	〃
3	イ ポ リ ッ ト の 死	1923	〃
4	牝 鹿 (1)	1924	〃
5	〃 (2)	〃	〃
6	スペイン便り	1926	〃
7	フィネットの冒険	1928	〃
8	マ リ ア ナ	1932	〃
9	バ リ	1937年	1938
10	小 さ な 娘 た ち	1942	〃
11	ア ン タ レ ス	1944	〃
12	み や び な 宴	〃	〃



企画展

房総の美術家シリーズ—20—

鈴木方鶴展

会期 平成2年9月13日(木)～10月14日(日) 28日間

展示点数 58点

入場者数 22,084人

鈴木方鶴(1918～1985)は、香取郡山田町に生まれ、千葉師範学校(現千葉大学)在学中に浅見喜舟に学んだ。昭和24年から昭和53年の定年まで、県立千葉女子高校に勤務するかたわら書に打ち込み、無心会理事・県美術会常任理事・日本書道美術院審査員等をつとめた。

一方、昭和51年には、幻の書家といわれた渡邊沙鷗の作品集を出版するなど書道史研究にも優れた業績を残した。

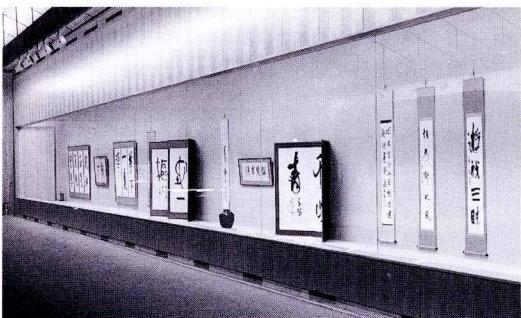
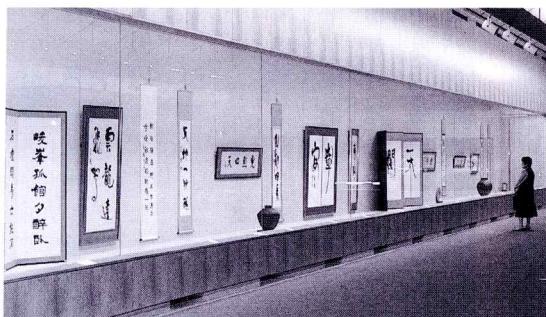
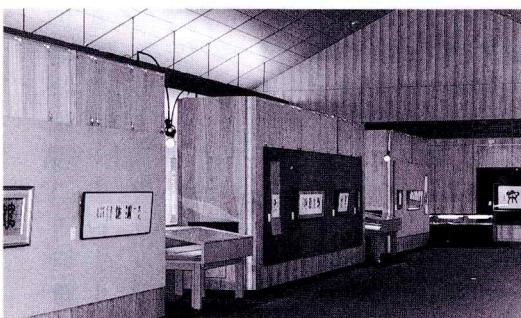
鈴木方鶴の書風は、各体にわたり幅広い表現を示しているが、特に六朝時代の楷書の臨書に優れている。また、第39回日本書道美術院展では、「一笑千山青」によりオリベッティ国際賞を受賞した。

本展では、鈴木方鶴の作品のほか、遺愛品、著作などを一堂に紹介し、その偉業を回顧した。



出 品 目 錄

No.	作 品 名	制作年	所 藏 者	No.	作 品 名	制作年	所 藏 者
1	臨張黒女墓誌銘	1951		24	慈	1981	
2	峻峯孤館夕醉	1952頃		25	登樓萬里春	〃	
3	沈沈更鼓急・・・	1965		26	湖光雲淨	〃	
4	萬昌	1968	千葉県立美術館	27	春眠不覺曉・・・	〃	
5	臨鄭長猷造像記	1968頃		28	天地一沙鷗	1982頃	
6	天眞爛漫	1972		29	寧	1983頃	
7	雲龍遠飛駕	〃		30	長	〃	
8	光照四天	1972～73		31	幽	〃	
9	乾坤正氣天地皆春	1973		32	竹	1983頃	
10	昌樂	〃		33	普天同慶	〃	
11	天地一沙鷗	1974		34	處士風流	1983～84	
12	幽	〃		35	安	福	〃
13	邃	1976		36	大	觀	〃
14	胡馬嘶北風	〃		37	幽	靜	〃
15	壽福	〃		38	道	〃	
16	天地一沙鷗	〃		39	晏	如	〃
17	仙境春長	1978		40	延	壽	〃
18	人事三杯酒	1978頃		41	素	心	〃
19	麟出鳳翔	〃		42	日出海天晴	樂	〃
20	和	〃		43	長	月	〃
21	山靜日長	1979		44	一竿風月	長	〃
22	臨不審帖	〃		45	山中雲氣成・・・	〃	
23	壽仙	1980		46	南山祝壽	長	〃



—リアリズムの追求—

第2回浅井忠記念賞展

会期 平成3年1月6日(日)～2月11日(月) 32日間

展示点数 100点

入場者数 25,805人

開館以来、日本近代洋画の先駆者で、リアリズムの追求を続けた本県出身の洋画家・浅井忠の画業を顕彰することに努めてきた。この間、昭和58年度に美術館開設10年記念事業として、浅井忠の精神を現代に生かし、また、現代美術の振興に寄与するため、公立美術館として初の試みである全国公募による「浅井忠記念賞展」を開催し、多大な評価を得ることができた。

このたび、第2回展を開催することにより、現代における美術の一層の振興を図り、その動向を紹介する機会とした。

その他、浅井忠作品コーナーを特設し、館収蔵の作品および資料112点を展示了。

審査員

乾 由明、植村鷹千代、陰里鐵郎、○嘉門安雄、河北倫明、桑原住雄、中村傳三郎、原田平作、本間正義、三木多聞（五十音順）○は審査会長

出品目録

No.	作家名	作品名	No.	作家名	作品名
	大賞		21	大 中 昇(千葉)	千鳥
1	田 中 定 一(栃木)	私 の 地 球	22	奥 村 靖 子(大 阪)	SEA CONTAINER
	優秀賞		23	織 田 悅 郎(滋 賀)	A I R M A I L
2	櫻 井 晨 正(奈 良)	C a r r i e	24	小 山 松 隆(千 葉)	谷 津 干 渴
3	片 小 田 栄 治(東 京)	地 I (DIRTY COLLECTION)	25	鹿 野 浩(埼 玉)	地 の 空
4	中 野 康 二(京 都)	a r i p p l e	26	川 村 悅 子(大 阪)	沈 黙 と 青 空
	入選(五十音順)		27	菊 池 敏 之(群 馬)	擬 態
5	青 木 和(千 葉)	文 樂 人 形	28	北 澤 茂 夫(茨 城)	旅 の 始まりー II ー
6	青 木 一 美(長 野)	朝 の 安 曇 野	29	北 山 寛 一(北 海 道)	生命 の オリジン(春)
7	青 木 貴 次(千 葉)	採 石 場	30	北 山 義 明(兵 庫)	私 心 象 的 風 景 か ら
8	朝 喜 徹(兵 庫)	忘 れ ら れ た 場 所	31	木 下 誠 一(千 葉)	漁 船 帰 る
9	朝 森 武(東 京)	9 月 の 室 内	32	久 保 田 辰 男(広 島)	市 の 日
10	安 達 博 文(富 山)	A 氏 の 家 族	33	黒 田 邦 裕(千 葉)	群 像 (生)
11	荒 木 尚(千 葉)	Metamolphose-ASO	34	幸 野 義(京 都)	路 頭
12	安 藤 晴 啓(東 京)	HAPPY X'mas(バラ色の愛)	35	後 藤 里 美(神 奈 川)	海 底
13	生 田 裕 人(千 葉)	幕 張 新 大 地	36	小 林 一 彦(京 都)	1990 年 11 月 12 日
14	石 毛 正 一(〃)	ひ ぐ ら し の 鳴 く 頃	37	小 林 正 誠(千 葉)	石 の 対 話
15	石 塚 三 吾(神 奈 川)	時 の 足 音	38	小 林 裕 児(東 京)	(また 一 本 の 枝 を 植 え た) 雕 一 女
16	伊 藤 順 一(東 京)	暮 れ 泥 む	39	小 保 方 清(千 葉)	九 十 九 里 浜
17	宇 田 川 宣 人(福 岡)	遠 い 夏 の 影	40	五 味 文 彦(〃)	伝 え 聞 く こ と ろ に よ る と
18	内 山 憲(東 京)	望 郷	41	小 柳 吉 次(東 京)	棲
19	大 塚 利 典(埼 玉)	今、右 足 か ら 踏 み 出 せ ば	42	斎 藤 寅 彦(〃)	朱 い 机
20	大 横 隆(千 葉)	風 の な い 午 後	43	斎 藤 捷 夫(千 葉)	見 果 て ぬ 夢



No.	作 家 名	作 品 名	No.	作 家 名	作 品 名
44	佐々木俊介(福岡)	旅一家を建てる	73	日暮 一仁(千葉)	長閑
45	佐藤 清治(青森)	津軽じょんがら(石戸戸の棚)	74	蛭田 均(京都)	BLACK SACK
46	佐藤 勤(東京)	人力飛行の研究	75	昼間 孝(神奈川)	異次元への入路
47	塩路 真保(〃)	光風荘	76	廣津 竜伍(茨城)	愁湖
48	清水 麻紀(千葉)	環(かん)	77	樋渡 理志(山形)	警鐘
49	鈴木 智子(〃)	卓上のボエム	78	福家 かちよ(富山)	白鳥になれて(おひ、踊てる)
50	瀬戸 英悦(〃)	1978年 テレホンコーナー	79	船山 寿子(千葉)	白夜の静物
51	染谷 厚(埼玉)	イスとテーブルのある室内	80	星 兼雄(神奈川)	時の景一(風化)
52	高橋 秀行(千葉)	静寂	81	星 加達夫(埼玉)	冬の朝
53	高森 登志夫(〃)	風景	82	星 加哲男(広島)	1990・夏のおわりに
54	竹内 利枝(〃)	青の季節	83	細川 尚(千葉)	無名の日物
55	多田 耕二(〃)	風景	84	前川 ケイコ(埼玉)	静物
56	館野 弘(茨城)	象の街II	85	松村 憲一(愛知)	水田夕景
57	田中 圭一(大阪)	作品'90-IV	86	松本 安良(茨城)	I F Y O U . . .
58	田辺 光則(茨城)	911	87	丸田 栄蔵(埼玉)	City Jungle
59	田沼 和夫(千葉)	灯	88	水上 泰財(東京)	1990-夏
60	種川 とみ子(〃)	生の刻	89	峰尾 幸仁(〃)	「ストレイタス」
61	千葉 比呂志(〃)	憩う漁師たち	90	宮坂 健(栃木)	浮遊する方舟
62	築山 佳民(京都)	私風景III	91	宮崎 久美子(愛知)	ハプニング(団らんの崩壊)
63	佃 彰一郎(東京)	在る片隅に	92	宮澤 昇(千葉)	冬の開門
64	土嶋 敏男(三重)	人と物(Lebenszeit)	93	明前 信洪(〃)	叫び
65	徳増 雄二(静岡)	智加子	94	森 一浩(〃)	風景は2度変わる
66	中野 修一(愛知)	雪原風景	95	安盛 孝一郎(神奈川)	午後の食卓
67	西村 満(新潟)	黎明	96	柳沢 敏男(東京)	バイセクル・ブリッジ
68	西室 勝芳(山梨)	静物	97	山口 賛治(京都)	湿原
69	橋本 英子(千葉)	花をめでる	98	山口 静治(兵庫)	もう一人の私
70	橋本 札奈(東京)	私的な領域	99	山下 哲郎(福岡)	Nift y
71	浜田 清(千葉)	遠い日(陽だまり)	100	吉野 順夫(千葉)	親子像
72	原 三郎(〃)	インドの太陽No.3			



第14回 千葉県移動美術館

会 場 ①八日市場市立公民館

会 期 ②栄町役場町民ギャラリー

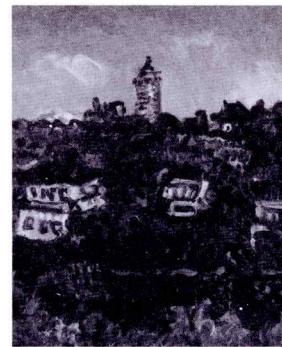
①平成2年11月20日(火)~12月2日(日) 11日間

②" 12月5日(水)~12月18日(火) 14日間

展示点数 ①50点 ②50点

入場者数 ①1,100人 ②1,307人

館収蔵作品を中心に県展受賞作品の一部を加えて移動展覧を行い、美術品が身近に鑑賞できる機会を提供した。



第14回 千葉県移動美術館

平成2年11月20日(火)~12月2日(日)

平成2年12月5日(水)~12月18日(火)

出 品 目 錄

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年	
「館収蔵作品」								
<日本画>								
1	富取風堂	朝	光	1931	1	高村光太郎	薄命児	頭部
2	島多訥郎	秋	趣	1966	2	大川逞一	聖	観
3	立石春美	狗		1967	3	佐藤忠良	ラ	ヅ
4	渡辺学	下総の海	女		4	舟越保武	婦	人
5	松尾敏男	原	野	1973	<彫 刻>			
<洋 画>								
1	浅井忠	藁	屋	根	1	香取秀	鳩	香
2	都鳥英喜	洛	北の早	春	2	津田信	変	炉
3	石井柏亭	安	倍	川	3	宮之原	象	色
4	小山周次	山	宝	柑	4	鹿島一	謙	七
5	黒田重太郎	女	と	犬	5	秋山逸	谷	磁
6	安井曾太郎	熱	海	附	6	信田	布	鉢
7	梅原龍三郎	皇		近	7	藤田喬	象	水差
8	原勝郎	京		居	8	鈴木治	貝	1981
9	鶴田吾郎	谷		橋	9	神谷紀	象	1966
10	石橋武治	夜	の	富士	1	香取秀	嶺	1933
11	椿貞雄	鴨			2	津田信	貌	1968
12	中西利雄	トリエール・シェール・セーヌ			3	宮之原	象	
13	不破章	裁縫	女		4	鹿島一	嵌	
14	小堀進	レマン	湖畔		5	秋山逸	谷	
15	寺田政明	犬吠灯台の見える外川港			6	信田	布	
<版 画>								
1	浜口陽三	緑のぶどう		1958	1	若谷洋子	異國の華	1990
2	"	ピーマンのある静物		1960	2	鶴田喜美	ひとつ	"
3	星襄一	星の森(大)		1971	3	三島喜一	たたずみ	"
4	"	大	樹	1977	4	清野一郎	月光	"
5	深沢幸雄	影(メヒコ)A		1974	5	高橋心行	五絶	"
6	"	掌の中の影		1976	6	亀山宮日子	二首	"
7	池田満寿夫	シンデレラの広告		1966			(書・県展賞)	
<第42回県展受賞作品>								
1	若谷洋子	異國の華						
		(日本画・県展賞)						
2	鶴田喜美	ひとつ	の時					
		(洋画・県展賞)						
3	三島喜一	たたずみ						
		(彫刻・県展賞)						
4	清野一郎	月光	二首					
		(工芸・県展賞)						
5	高橋心行	五絶	日葵					
		(書・県展賞)						
6	亀山宮日子	二首						
		(日本画・文部大臣奨励賞)						



八日市場市
(八日市場市立公民館)



栄町
(栄町役場町民ギャラリー)



普 及 事 業

美術講演会は、展覧会に併せ年5回開催した。

実技講座は、経験者を対象とした美術館講座6種10講座（延92日）を開催した。

図書は、年間223冊収集し、現在3,607冊を収蔵し、情報資料室に於いて県民の利用に供している。

刊行物は展覧会に併せた図録、チラシ、ポスター、目録、更に館報2回、房総の美術史12回、年報、事業案内、館概要などを刊行した。

そのほか、友の会事業による初心者を対象とした実技講座2種6講座（延32日）、美術鑑賞の旅等をはじめ、博物館実習生の受け入れ（5大学6人）、関東地区博物館協会等の協力を行った。

教育普及

美術講演会

美術に対する関心や理解を深める機会として、展覧会に併せて美術講演会を実施した。

特別展「石井林響をめぐる画家たち」では、会期中2回の講演会を行った。まず6月16日に美術評論家の細野正信氏が、スライドを交えて石井林響の生涯を回顧しながら、その画風や美術史上の位置について講演された。次いで7月7日に美術評論家の鈴木進氏が、石井林響が後世に残り得る優れた技量の画家であること、日本伝統の水墨画がもっと正当に評価されてよいこと、現代における本展の意義についてなど、幅広い視点から話された。

企画展「鈴木方鶴展」では、9月22日に開催した。長年、鈴木方鶴と親交のあった書家の高澤南総氏が、氏自身の手による方鶴の書の模写等を使用され、氏の書に対する考え方を織り交ぜながら、方鶴の書の特質や味わい、さらに人物評などをわかりやすく親しみをこめて語られた。当日は方鶴と交友のあった書の仲間や教え子等も多数つめかけた。

企画展「第2回浅井忠記念賞展」では、1月19日に本展の審査員で大阪大学教授の原田平作氏が、スライドを用いながら、近代洋画の発展に大きな功績を残し、リアリズム絵画を追求した浅井忠の画風の特徴とその現代的意義を中心講演された。

特別展「マリー・ローランサン」では、2月23日に美術評論家の瀬木慎一氏が、スライドにより、ローランサンの画風の変遷や特徴、その時代的背景、また彼女を取り巻く人々について詳細に論じられた。ローランサンの人気と相俟って会場には何時にも増して遠方から多数のファンがつめかけた。



No.	期日	演題	講師	聴講者数
1	6月16日(土) 2時~	石井林響とその時代	細野正信 (美術評論家)	181人
2	7月7日(土) 2時~	南画と近代日本画	鈴木 進 (美術評論家)	152人
3	9月22日(土) 2時~	鈴木方鶴さんのこと～人と書～	高澤南総 (書家)	200人
4	1月19日(土) 2時~	浅井忠と現代	原田平作 (大阪大学教授)	116人
5	2月23日(土) 2時~	ローランサンの芸術～その魅力と秘密～	瀬木慎一 (美術評論家)	200人

実技講座

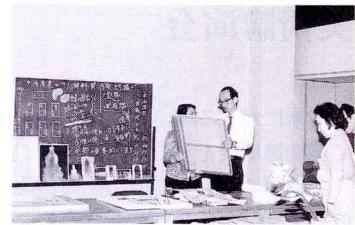
(1) 日本画講座

期日 平成2年6月19日(火)・20日(水)・21日(木)・23日(土)・24日(日)・28日(木)
29日(金)・30日(土)・7月1日(日)・3日(火)・4日(水)・6日(金)
(12日間／うち講師指導日数8日間)

講師 齋藤 悅氏

受講者数 18人

内容 経験者を対象として、花・くだもの・人物等のモチーフにより制作した。同時にドーサの作り方・絵の具・にかわ・筆・紙等の材料・道具の取り扱い方など基礎的な学習の後、彩色の技法について学習した。



(2) 洋画講座

期日 第1期 平成2年5月8日(火)・9日(水)・10日(木)・11日(金)・17日(木)
18日(金)・19日(土)・22日(火)・23日(水)・24日(木)
第2期 平成2年8月28日(火)・29日(水)・30日(木)・31日(金)・9月4日(火)・5日(水)・6日(木)・7日(金)・8日(土)・9日(日)
(各10日間／うち講師指導日数は各7日間)

講師 第1期 熊谷 文利氏

第2期 小林 数氏

受講者数 第1期 32人

第2期 32人

内容 経験者を対象として、第1期は、花、人物を、第2期は、静物・風景をモチーフとして、デッサン、構図、彩色などをはじめ、より幅広い表現について学習した。



(3) 版画講座

期日 第1期 平成2年5月23日(水)・24日(木)・26日(土)・27日(日)・29日(火)
30日(水)・31日(木)・6月2日(土)・3日(日)・6日(水)・7日(木)
8日(金)
第2期 平成2年11月27日(火)・28日(水)・29日(木)・12月1日(土)・2日(日)・4日(火)・5日(水)・6日(木)・7日(金)・11日(火)・12日(水)・13日(木)
(各12日間／うち講師指導日数は各7日間)

講師 第1期 増田 陽一氏

第2期 牛歎 健治氏

受講者数 第1期 9人

第2期 15人

内容 経験者を対象として、銅板・亜鉛板を素材に、凹版画の制作を通して材料や用具の扱い方、エッチングやアクアチントなどの各技法、更に刷りの技法について学習した。



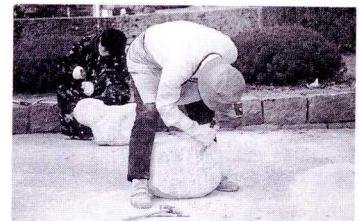
(4) 彫刻講座

期 日 平成 2 年 11 月 3 日(土)・4 日(日)・6 日(火)・8 日(木)・10 日(土)・11 日(日)
13 日(火)・14 日(水)・17 日(土)・18 日(日)・20 日(火)・23 日(金)
(12 日間／うち講師指導日数 8 日間)

講 師 酒井 良氏

受講者数 10 人

内 容 経験者を対象として、石を素材に、人物・動物・石仏など立体の表現方法、更に道具の取り扱い方を学習した。



(5) 陶芸講座

期 日 第 1 期 平成 2 年 6 月 12 日(火)・13 日(水)・14 日(木)・7 月 19 日(水)・20 日(金)

第 2 期 平成 2 年 10 月 23 日(火)・24 日(水)・25 日(木)・11 月 20 日(火)・21 日(水)・22 日(木)・23 日(金)・12 月 18 日(火)・1 月 11 日(金)
(各 9 日間／うち講師指導日数は各 5 日間)

講 師 第 1 期 明石 昇氏

第 2 期 鎌田 和平氏

受講者数 第 1 期 32 人

第 2 期 31 人

内 容 経験者を対象として、第 1 期は信楽土を素材にかき落とし、象嵌など、第 2 期は信楽土・半磁器土を素材に、上絵付などをはじめ土、ロクロ、窯詰め、施釉、焼成等について学習した。



(6) 書芸講座

期 日 第 1 期 平成 2 年 9 月 19 日(木)・20 日(木)・22 日(土)

第 2 期 平成 2 年 11 月 27 日(火)・28 日(水)・29 日(木)
(各 3 日間／うち講師指導日数は各 3 日間)

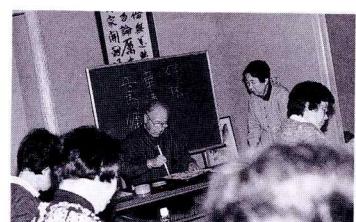
講 師 第 1 期 高木 東扇氏

第 2 期 中村 象閣氏

受講者数 第 1 期 25 人

第 2 期 18 人

内 容 経験者を対象として、第 1 期はかな、第 2 期は漢字を中心に様々な表現について学習した。



情報資料室

毎週火～金曜日（祝日・休館日を除く）12時30分～4時30分開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、特別展や企画展の開催に伴い、展覧会への一層の興味と理解を深めていただくため、関係図書類のコーナーを設けるなど時宜に併せた対応に努めた。さらに、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、ポストカード、情報誌などにより情報提供を行った。

なお、2年度の収蔵図書については140冊を購入、83冊を受贈し、美術情報資料の充実を図った。



購入

	書名	刊行年	発行所	編著者名
美術総記	世界美術の旅 1 パリ物語 上	1988	世界文化社	
	〃 2 〃 下	〃	〃	
	〃 3 ロンドン物語 上	〃	〃	
	〃 4 〃 下	〃	〃	
	〃 5 ニューヨーク物語 上	〃	〃	
	〃 6 〃 下	〃	〃	
	〃 7 ベルギー・オランダ物語	〃	〃	
	〃 8 ドイツ物語	〃	〃	
	〃 9 ローマ物語	1989	〃	
	〃 10 フィレンツェ物語	〃	〃	
	〃 11 オーストリア物語	〃	〃	
	〃 12 スペイン物語	〃	〃	
	N H K オルセー美術館 1	1990	日本放送出版協会	
	〃 2	〃	〃	
	〃 3	〃	〃	
	〃 4	〃	〃	
	N H K エルミタージュ美術館 1	1989	日本放送出版協会	五木寛之, N H K 取材班
	〃 2	〃	〃	〃
	〃 3	〃	〃	〃
	〃 4	〃	〃	〃
	〃 別巻	〃	〃	〃
	美術館シリーズ 1 オルセ美術館	1990	みすず書房	ミシェル・ラクロットほか
	〃 2 アムステルダム国立美術館	1990	〃	エミール・メイエル
	日本美術家事典 1990 年版	1989	オーアンドエムリミテッド	藤森耕英著 篠原美智子ほか編
	現代名工・職人名事典	1990	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ
	世界美術大事典 6巻	1989	小学校館	相賀徹夫
	ベルリン美術館 東	1987	岩波書店	ギュンター・シャーデほか
	〃 西	1989	〃	アンドレアス・グローテほか
	和英対照日本美術用語事典	1990	東京美術	和英对照日本美術用語事典編集委員会
	中国博物館総覧 上巻	〃	中国博物館総覧刊行委員会	黎先耀

	書名	刊行年	発行所	編著者名
美術総記	美術・デザイン賞事典	1990	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ
	芸術・美術に関する10年間の雑誌文献目録 昭和50-59年 I 一般・理論・芸術史	1987	〃	
	芸術・美術に関する10年間の雑誌文献目録 昭和50-59年 II 絵画・書・彫刻・写真・工芸	〃	〃	
	建築に関する10年間の雑誌文献目録 昭和50-59年	〃	〃	
	オックスフォード西洋美術事典	1989	講談社	佐々木英也ほか
	20世紀の芸術 1	〃	岩波書店	阿部良雄ほか
	〃 2	〃	〃	轡田収ほか
	〃 7	1990	〃	藤枝晃雄ほか
	〃 8	〃	〃	多木浩二ほか
	〃 9	〃	〃	谷川渥ほか
絵画	中村彝画集	1984	日動出版	廣田整司
	ロマン派	1990	中央公論社	ジャン・クレイ
	ホックニー画集 ひとつの回顧	1988	リブロポート	アール・ヴィヴィアン
	名画の技法	1987	メルヘン社	ヴァルデマル・ヤヌシチャク
	現代美術の巨匠 マックス・エルンスト	1990	美術出版社	ペレ・ジムフェーレル
	〃 マルセル・デュシャン	〃	〃	グロリア・モウレ
	モダンマスターズシリーズ アンディ・ウォーホル	〃	〃	カーター・ラトクリフ
	〃 ジャクソン・ポロック	1989	〃	エリザベス・フランク
	〃 ウィレム・デ・クーニング	〃	〃	ハリー・F・ゴーグ
	〃 アーシル・ゴーキー	〃	〃	メルヴィン・P・レーダー
	〃 ジョージ・シーガル	1990	〃	フィリス・タックマン
	〃 ジャスパー・ジョーンズ	〃	〃	リチャード・フランシス
	松本峻介 デッサン集	1977	高澤学園	創形美術学校ほか
	ヒエロニムス・ボッス全作品	1990	中央公論社	高階秀爾
	マリー・ローランサンの扇	1985	集英社	
	夜の手帖 マリーローランサン詩文集	1977	六興出版	
	虹の上の舞踏	1989	求龍堂	澤野久雄
	宋元明清書画名賢詳伝 全4巻	1973	思文閣出版	山本悌二郎, 紀成虎一
	巨匠の絵画技法 1巻 ゴッホ	1988	エルテ出版	W・ハイディ
	〃 2巻 モネ	〃	〃	T・コブルストン
	〃 3巻 ゴーギャン	〃	〃	レ・ボウルトン
	〃 4巻 ドガ	1989	〃	〃
	〃 6巻 ターナー	〃	〃	W・ハイディ
彫刻	淀井敏夫作品集	〃	講談社	淀井敏夫著第一出版センター編
	石井鶴三全集別巻II	〃	形象社	石井鶴三
工芸	佐々木象堂作品集	〃	新潟日報事業社	
	螺鋏	1985	同朋舎出版	荒川浩和
	原色陶器大辞典	1972	淡交社	加藤唐九郎
	陶芸の絵文様 下図と絵付近代編	1989	求龍堂グラフィックス	
	やきものをつくる	1965	美術出版社	河村熹太朗
	京都窯芸史	1984	淡交社	中ノ堂一信
	近代日本の色絵磁器	1979	〃	東京国立近代美術館
	河合卯之介の世界	1982	求龍堂	河合紀, 吉田善彦
	日本の名隨筆「陶」	1986	作品社	白洲正子
	陶磁器染付文様事典	1989	柏書房	三杉隆敏, 榊原昭二
	現代陶器の彩飾技法	1988	修学館(明現社)	素木洋一
	茶道美術鑑賞辞典	1987	淡交社	池田巖ほか
	京焼百年のあゆみ 2分冊	1962	京都陶磁器協会	藤岡幸二

	書名	刊行年	発行所	編著者名
	京焼きの文様 デザイン集成 I 〃 II やきもの事典 しなの陶磁器	1986 〃 1985 1982	京都書院 〃 平凡社 信濃毎日新聞社	シーグ社出版 〃 下中邦彦 安藤裕、城取昌史
書	書道技法事典	1990	木耳社	阿保直彦
版画	ロートレック全版画 1 〃 2	〃 〃	岩波書店 〃	ウォルフガング・ウイトロック 〃
一般参考図書	大正ニュース事典 I 〃 II 〃 III 〃 IV 〃 V 〃 VI 〃 VII 〃 総索引 日本書籍総目録1990書名編アース 〃 セーン 〃 索引編 出版年鑑 1990 全2巻 千葉県の教育に灯をかかげた人々1巻 〃 2巻 〃 3巻 ロワイヤル仏和中辞典 新潮世界文学辞典 房総人名辞書 千葉県地名大辞典 神道人名辞典 ギリシャ・ローマ神話辞典 欧米文芸登場人物事典 来日西洋人名辞典 昭和ニュース事典 I 〃 II 千葉師範付小「自由教育」全6巻	1989 1988 1987 1989 1988 1989 1989 1990 1990 1990 1989 1989 1990 1986 1990 1987 1984 1986 1990 1990 1989 1989 1990 1990 1974	毎日コミュニケーションズ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 日本書籍出版協会 〃 〃 出版ニュース社 千葉県教育会館 〃 〃 旺文社 新潮社 国書刊行会 角川書店 神社新報社 大修館書店 〃 日外アソシエーツ 毎日コミュニケーションズ 〃 宣文堂書店	日本書籍出版協会 〃 〃 出版年鑑編集部 「千葉県の教育に灯をかかげた人々」編集委員会 〃 〃 新潮社辞典編集部 千葉毎日新聞社 竹内理三 マイケル・グラント ジョン・ヘイゼル 中村栄子 竹内博
雑誌(合冊復刻)	雑誌国画全27冊 雑誌「陶磁」完全復刻版全13巻 大日本美術新報全5巻	1941-43 1990 〃	塔影社 国書刊行会 ゆまに書房	楠正保 東洋陶磁研究所

受贈

	書名	刊行年	発行所	編著者名
美術総記	昭和の美術 2 11~20年 〃 3 21~30年 〃 5 41~50年 〃 6 51~64年 〃 別冊 日本の美術館ガイド	1990 〃 〃 1991 〃	毎日新聞社 〃 〃 〃 〃	堀田進弥 〃 〃 〃 〃
	石川県の博物館 The Hidden order 日本芸術メダル協会創立20周年記念誌	1990 1990 1990	能登印刷出版部 講談社インターナショナル 日本芸術メダル協会	能登印刷出版部 芦原義信 鈴木健之

	書名	刊行年	発行所	編著者名
	わたくし美術館 第3巻	1987	文化書房博文社	尾崎正教
	必携中国美術年表	1990	芸心社	山崎重久
	千葉県の文化財	"	千葉県教育委員会	千葉県教育委員会
	美術日本近代思想大系17	1989	岩波書店	
	反骨の人 大島隆一遺稿追悼集	1990	大島まさ	三輪敦
絵画	前田喜男「美の世界」	1989	前田喜男追悼事業実行委員会	前田喜男追悼事業実行委員会
	美から美へ	1990	ロータリーの友事務所	加藤進治
	時田直善画集	"	時の美術社	菊池明子
	中島千波画集きのね	"	朝日新聞社	中島千波著 本庄俊男・彩鳳堂画廊編
	美との対話	"	東京梅田画廊	大日本絵画
	みのわ淳作品集	"	正進社	
	青木捷美画集	1989	青木正江	青木正江
	平山郁夫全集第2巻歴訪大和路	1990	講談社	平山郁夫
	中村貞夫画集第5巻	1991		中村貞夫
	瓦礫の街から From The Ruins 1945~	1990	アトプリントインターナショナル	遠藤健
	中村善策風景との対話	"	北海道新聞社	鈴木正實著 北海道近代美術館編
	美の美百華	"	日本経済新聞社	圓城寺次郎
	昭和の文化遺産 第1巻 日本画I	"	ぎょうせい	細野正信
	" 第3巻 洋画I	"	"	富山秀男
	誰にもできる名画の技法 油絵	"	日本経済新聞社	小松崎邦雄
	中島千波画文集 四季	"	日本放送出版協会	中島千波
	幕末明治京洛の画人たち	1988	京都新聞社	中原田平作
	優駿賛歌	1990	京都書院	中畑艸人
	玉之内満雄画集	1989	愛実美術貨石考古博物館	
	郭徳俊作品集	"	美術公論社	朴信愛
	江藤哲画集全4冊	1990	江藤哲画集刊行会	江藤哲著 井上哲邦編
	現代の日本画7 東山魁夷	"	学習研究社	東山魁夷、尾崎正明著 竹内二郎編
	東山魁夷 第5巻 障壁画	"	講談社	東山魁夷
	池田満寿夫コラージュ作品集		番町画廊	
	日本美術院百年史 2巻上〔図版編〕	1990	日本美術院	日本美術院百年史編集室
	" 下〔資料編〕	"	"	"
	金光松美作品集 1961~1990	"	山木美術	傑アラベル編
	スケッチ紀行 房総の駅	"	東日本旅客鉄道千葉支社ファンシー	キュレイターズ
	松本陽子の絵画 光琳社の画集3	"	光琳社出版	尾野正晴
	李維安 李靜雯選画集	1989	李維安 李靜雯	陳汝祺
	田中実作品集	1991	田中実	
	中島清之画集	"	日本放送出版協会	中島清之著 中島洋光編
	東山魁夷館所蔵作品集I	"	信濃毎日新聞社	東山魁夷
	" II	"	"	"
	山口豊専画集	"	山口豊専画集編集委員会	山口豊専画集編集委員会
彫刻	中村晋也一作品集一 何もすることがない彫刻家は釣りにでる	"	南日本新聞社	常盤会
	流政之	1990	ブレーンセンター	福岡道雄
	千野茂作品集	"	江戸堀画廊	武市憲治
	明治の彫塑	1991	国画会彫刻部	千野茂著 国画会彫刻部編
工芸	加守田章二作品集	1990	文彩社	中村傳三郎
	与勇輝作品集	"	彌生画廊	
	エットレ・ソットサス・アドシスト・スタディーズ1986/1990	"	彩鳳堂画廊	与勇輝
			山際照明造形美術振興会	ソットサス・アソシエイツ

	書名	刊行年	発行所	編著者名
工芸	南部鉄器その美と技 宮田宏平金工NHK工房探訪つくる7 古賀大眉作品集 富本憲吉著作集	1990 1991 1981	岩手県南部鉄器協同組合連合会 日本放送出版協会 五月書房	南部鉄器協同組合 境弘文 富本憲吉、辻本勇
書	愛と炎と夢千代倉桜舟作品集 北田岳洋書作集 黄檗三筆 猗園雑纂	1990 1989 〃 〃	千代倉桜舟 北田岳洋先生米寿記念展運営委員会 東葉山万福寺全日本煎茶道連盟 西川ふぢの	西川寧
版画	二見彰一銅版画集 加納光於〈まなざし一疼く飛末を辿れ〉 森岡完介全版画 1973~1990	1987 1990 〃	阿部出版 ギャルリーユマニテ名古屋 MOK	小川正隆ほか著阿部出版編 井村博志ほか編
写真・映像	地球の顔 クラシック銀座 人間讃歌トミタ・サウンドクラウドイン FESTIVAL DE OTONO EN MADRID 1984-1988 華と詩と	〃 1988 1991	講談社 ぎょうせい トミタ・サウンドクラウドイン 長良川実行委員会 江尻ゆり子	Georg Gerster ぎょうせい編集部 トミタ・サウンドクラウドイン 長良川実行委員会ほか 江尻ゆり子
デザイン	色の見本帳	1989	ごま書房	千々岩英彰
一般図書	ちば人国記III 教育文化編 千葉県歴史の人物 あなたの府県の花と鳥 回春堂永吉の眼科病院 性のポリフォニー 蛇谷遺跡 国会開設に尽くした孤高の民権家 櫻井静	1990 1988 〃 1990 〃 1989 1990	毎日新聞社 暁印書館 八宝堂 永吉の眼科病院 世界思想社 市原市教育委員会、市原市 国分寺台地区画整理組合 芝山町役場	毎日新聞千葉支局 荒川法勝 日本図案家協会ほか 千葉保次著澤本吉則編 原田平作、溝口宏平 滝口宏 櫻井静先生を偲ぶ会実行委員会

分類別図書数

(平成3年3月31日現在)

分類	平成元年度まで	平成2年度	計
美術総記	1,109	53	1,162
絵画	924	64	988
彫刻	143	7	150
工芸	227	25	252
書	114	5	119
版画	87	5	92
デザイン	25	1	26
写真・映像	150	5	155
その他	45	0	45
雑誌(合冊・復刻)	284	19	303
一般図書	276	39	315
合計	3,384	223	3,607

区分	平成元年度まで	平成2年度	計
購入図書	1,932	140	2,072
受贈図書	1,452	83	1,535

(展覧会図録を除く)

刊行物一覧

名称	規格	頁数	発行部数
千葉県立美術館報 Vol.17 No.1~2	B5	6	各2,000
平成元年度版 千葉県立美術館年報	B5	58	1,000
常設収蔵作品展 目録 ポスター	B5 A2	(1,2期4,000 5期2,000) 1 1,000	
特別展「石井林蔵をめぐる画家たち」 図録 ちらし ポスター 車内吊ポスター	B5 B5 B2 B3	100 2 1 1 1,000 30,000 1,000 2,000	
特別展「マリー・ローランサン」 図録 ちらし ポスター 車内吊ポスター	24×25 B5 B2 B3	94 2 1 1 1,000 30,000 1,500 2,000	
企画展「鈴木方鶴展」 図録 ちらし ポスター	B5 B5 A2	36 2 1 200 5,000 1,000	
企画展「第2回浅井忠記念賞展」 募集要項 図録 ちらし 公募用ポスター 展覧会ポスター	B5 24×25 B5 B2 B2	8 52 2 1 10,000 1,500 10,000 5,000 1,000	
房総の美術史 No.79~90	B5	4	各500
平成3年度事業案内	A4変形	3折	20,000
千葉県立美術館概要	A5	8	3,000

活動協力

千葉県立美術館友の会

1. 目 的

”みる・かたる・つくる”という美術館活動に積極的に協力し、楽しいふんい気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める

2. 組 織

(1)会員数 個人会員738人 賛助会員9人
(2)役員 名譽会員6人 会長1人 副会長3人 監事3人 理事若干人

3 事 業

(1)友の会だより”しおさい”の発行、年3回。各1000部印刷し、会員に配布した。
 (2)第15回葉美会展の開催 会期／平成2年7月24日(火)～7月29日(日) 出品者28人 展
 (3)秋の美術鑑賞の旅 美術品や文化財を訪ねながら、親睦も深めるために実施した。
 ①日 時 10月12日(金)
 ②行 先 松戸市(蔵づくり美術館・万満寺・本土寺)・柏市(砂川美術工芸館)
 ③参加者数 45人

(4)館事業への協力
館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に

参加し

その他の

ラレボンガード・経葉書・

博物館實習

関係各大学の依頼により学芸員資格取得希望の学生を下記のとおり受付られた。

平成2年8月6日(月)～8月11日(土)

実践女子大学 1 人、東京学芸大学 1 人、大阪芸術大学 1 人、白梅学園短期大学 1 人、跡見学園女子大学 2 人(計 6 人)

そ の 他

関東地区植物誌研究会

平成元年6月に埼玉県立博物館より、関東地区博物館協会事務局を引き継ぐ。平成2年度事業は次のとおりである。

平成2年6月13日(木) 理事会・総会・研究会(まばれ済会館)

6月14日(木) 目学会(千葉県立中央博物館・千葉県立美術館)

11月14日(木) 研究会(英城唱近代美術館)

平成3年1月16日(木) 機関紙「開車の博物館」15号の編集会議(茨城県近代美術館)

3月14日(木) 理事会(千葉県立美術館)

3月14日(木) 理事会 (千葉県立美術館)
3月25日(月) 機関紙「関東の博物館」15号の発行

資料貸出一覧

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
鴎川誠一	花火	「鴎川誠一」絵画展	2.5.7~5.12 ニューヨーク市世界貿易センター	鴎川 宏
〃	ノ工ル			
〃	美女と野獸			
〃	男A			
〃	女と鳥			
〃	庭の彫像			
〃	女たち			
〃	田園			
〃	野の女			
〃	裸女と仏陀			
〃	花B			
椿貞雄	鋸山から見た房総半島	「名画にみる日本の海」	2.6.1~6.17 横須賀市はまゆう会館	横須賀市
林倭衛	岩和田海岸			
石橋武治	水辺初夏	「描かれた水郷」	2.6.1~6.30 千葉県立大利根博物館	千葉県立大利根博物館
石井柏亭	佐原			
浅井忠	槐庭時代画帳	「名画家たちの十代」	2.5.3~5.9 名古屋・三越栄本店	朝日新聞名古屋本社
田中善之助	聖護院の裏		2.6.16~7.15 大阪・つかしんホール	
〃	出町			
椿貞雄	自画像			
足立源一郎	下加茂の森			
〃	あは田			
石井柏亭	老太々	「大正の洋画展」	2.7.1~8.5 新潟県美術博物館	新潟県美術博物館
椿貞雄	八重子像			
〃	横堀角次郎兄像			
浅井忠	石膏臨画	「浅井忠展」	2.8.4~9.2 浜松市美術館	浜松市美術館
〃	女の顔(模写)		2.9.21~10.14 広島県立美術館	広島県立美術館
〃	風景(1)			
〃	鍛冶橋			
〃	玉川			
〃	人物立像			
〃	曳舟通り			
〃	磐梯山の図			
〃	スケッチ(房州白浜)			
〃	平城大仏鐘楼			
〃	スケッチ(房州乙浜村)			
〃	母の肖像			
〃	西洋婦人			
〃	フォンテンブローの夕景			
〃	農家			
〃	奈良郊外			
〃	中沢岩太像			
〃	欧州市場風俗			
〃	帆船の図			
〃	糸をくる女			
〃	かぶとの図			
〃	老母像			
〃	婦人像			
〃	樹			
〃	千石船			
〃	桶とせいろう			
〃	はたらく婦人			

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
浅井 忠	民 家 (1) 〃 民 家 (A) 〃 欧 州 風 景 〃 亀 の 図 〃 韓 信 図 〃 鐘 憋 図 〃 篠を背負う女 〃 茶 器 (黙語図案) 〃 農家風俗画手塗皿 〃 茶器 (猿蟹合戦図) 〃 当世風俗五十番歌合(2番) 〃 〃 (7番) 〃 〃 (15番) 〃 犬と人 力 車			
	沢 入 駅 〃 平壌大同江煉光亭 〃 魏子窩第二軍司令部 〃 金 州 城 南 門 外 〃 金 州 城 壁 上 〃 農 婦 〃 洋 上 の 夕 陽 〃 田 植 之 図 〃 松 〃 梅 〃 古 城 (子 規 句) 〃 人 物 風 俗 図 〃 盗 賊 〃 参 詣 〃 図案画稿 (花瓶図) 〃 〃 (女神図) 〃 〃 (戸棚図) 〃 花 〃 図案画稿 (ダチョウ図) 〃 〃 (木かけの女)		(浜 松 市 美 術 館 のみ)	
	渓 流 〃 藤 屋 根 〃 パ リ 公 園 〃 フォンテンブローの森 〃 男 性 裸 像 〃 琵 琶 法 師 〃 金 州 城 外 之 図 〃 ほ し か き 〃 狂 女 (子 規 句) 〃 子 規 居 士 弄 丹 青 図 〃 も ろ こ し の 図 〃 も ろ こ し と 凤 仙 花 〃 参 詣 〃 図案画稿 (魚の図) 〃 〃 (モロコシの図) 〃 大 原 女 〃 図 案 画 稿 (花木)		(広 島 県 立 美 術 館 のみ)	

作 家 名	作 品 名	出 陳 展 覧 会 名	会 期 ・ 展 示 会 場	貸 出 先
浅井 忠 〃	図案画稿(渢流) 〃(鉢の図)	「浅井忠展」	(広島県立美術館のみ)	
帖佐美行	酔と鳩(集いの酒器セット)	「帖佐美行展」	2.9.5~9.10 2.9.13~9.18 2.9.20~9.25 東急百貨店本店 松坂屋名古屋店 高島屋大阪店	帖佐美行展実行委員会
津田信夫 〃	一 點 玲 璏 鑄 銅 水 盤	「日本 の 眼 と 空 間」	2.9.8~9.24	セゾン美術館
浅井 忠	A Pictorial Museum of Japanese Manners and Customs	「日本美術の19世紀」	2.9.1~9.30	兵庫県立近代美術館
香取秀真 〃	靈 獣 文 大 花 瓶 鳩 香 爐	「文化勲章受章作家展」	2.8.23~9.4 2.9.6~9.11 2.9.27~10.2 2.10.4~10.9 松坂屋上野店 松坂屋名古屋店 松坂屋静岡店 松坂屋大阪店	読売新聞社
信田 洋 二口志保子	裝 瓶 (樓) 紬 織 訪 問 着	「第42回県展」	2.10.17~11.11	千葉県立美術館
安西順一	秋 晴	「安西順一作品展」	2.10.30~11.18	君津市立久留里城址資料館
鶴田吾郎 〃 〃 〃 〃 〃	池 袋 風 景 自 画 像 存 在 在 蒙 古 の 女 女 徳 富 蘇 峰 氏	「近代洋画の青春」	2.10.21~11.18	常葉美術館
河合新蔵 後藤工志 中林 優 三宅克己	春 の 日 ダ リ ア け し の 花 小 諸 城 址	「信州ゆかりの水彩画展」	2.11.16~11.20 2.12.2~12.9 長野県佐久創造館 長野県伊那文化会館	長野県信濃美術館
笛岡了一 中西利雄 〃 〃	放蕩息子の帰宅 人物(婦人像A) 暁り日の離宮と駅 南 仏 風 景	「笛岡了一・人と画業の軌跡」 「絵画による同窓会展」	2.10.16~12.16 2.11.8~12.2 2.12.9~12.25 流山市立博物館 稲沢市萩須記念美術館 秋田市立千秋美術館	流山市立博物館 稲沢市萩須記念美術館 秋田市立千秋美術館
西村昭二郎	新 雪	「西村昭二郎展」	3.2.13~2.17	茨城県つくば美術館
浅井 忠 〃 ファンタネージ 〃 コ ラ ン ローランス	フォンテンブローの夕景 農 婦 森の空地の農婦 風 景 2 田 園 詩 カルカッソヌの幽閉者の解放	「画家たちの青春と留学」	3.1.15~2.11	西宮市大谷記念美術館
三宅克己 五百城文哉 大下藤次郎 〃 石井柏亭 中西利雄 不破 章 〃 小堀 進	小 諸 城 址 日 光 青 梅 久 々 子 湖 病 児 四 人 の 女 描 く O 君 二 女 冬 晴 の 果 樹 園	「みずゑのあけぼの」	3.1.26~3.10	徳島県立近代美術館
香取正彦 〃	金 銅 魚 藍 観 音 臘 銀 玉 錫 花 瓶	「鐘声無辺—香取正彦展」	3.3.9~4.7	目黒区美術館

収 集 事 業

資料収集については、日本画12点、洋画12点、彫刻1点、工芸3点、書18点、版画1点、研究資料107点を新たに収蔵した。
その他、基金によりブルデルの彫刻など5点を取得した。

収蔵資料

日本画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	横尾芳月	緑陰	昭和34	紙・着彩	181.0×136.0	購入
2	〃	鏡獅子	昭和56	〃	160.0×129.0	〃
3	〃	いで湯	昭和55	〃	160.0×130.0	寄附
4	〃	澄心	昭和59	〃	171.0×173.0	〃
5	〃	春風	昭和61	〃	160.0×128.0	〃
6	石井林響	岩魚つり	大正15	紙・墨・淡彩	59.2×69.2	〃
7	〃	漁樵	不詳	絹・着彩	167.3×369.0	購入
8	小宮山俊	赤い嶺(雪稜)	昭和63	紙・着彩	180.0×270.0	〃
9	〃	沙羅の樹の下	昭和56	〃	216.0×360.0	寄附
10	〃	白い嶺	昭和63	〃	210.0×270.0	〃
11	牧野三生郎	赤目之滝	不詳	紙・墨	28.0×35.7	〃
12	若木山	鏡	昭和32	紙・着彩	152.5×208.0	購入

洋画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	吉田博	雨後の穗高山	昭和2	キャンバス・油彩	61.0×80.5	購入
2	柴田祐作	水郷静日	昭和56	紙・水彩	90.0×130.0	〃
3	〃	佐原風景	昭和55	〃	111.0×145.6	寄附
4	〃	白い蔵	昭和63	〃	145.6×111.0	〃
5	足立源一郎	水郷初夏(中州4)	昭和30	板・油彩	22.0×27.3	〃
6	〃	〃(中州5)	〃	〃	〃	〃
7	〃	〃(中州水明館より)	〃	〃	〃	〃
8	田中定一	私の地球	平成2	キャンバス・油彩	163.0×227.3	購入
9	櫻井正	C a r r i e	〃	〃	227.0×182.0	〃
10	片小田栄治	地I(DIRTY COLLECTIONより)	〃	合板パネル・油彩	260.0×162.0	〃
11	中野庸二	a r i p p l e	〃	パネル布貼・油彩	155.0×220.0	〃
12	大崎善生	十ニ橋	昭和25頃	紙・水彩	87.7×128.5	〃

彫刻

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	毛利教武	手	大正8	ブロンズ	17.8×20.5×22.5	購入
※	辻志郎	Space time	平成元	〃	100.0×80.0×100.0	購入後千葉県教育センターへ保管換

工芸

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	受入方法
1	香取秀真	鶴文鉄釜	不詳	鋳金	径21.2高16.0	購入
2	〃	銅製鰐口	〃	〃	径6.0厚2.3	〃
3	〃	銅製鼎	〃	〃	径5.2高5.9	〃

書

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	小暮青風	修羅	昭和48	紙・墨	138.0×45.5	寄附
2	〃	漂泊の思い	昭和60	〃	176.5×720.8	〃
3	〃	一閑人	平成2	〃	85.7×116.2	〃
4	鈴木方鶴	一笑千山青	昭和59	〃	136.0×204.0	購入
5	〃	壺中日月長	〃	〃	135.0×68.0	〃

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
6	鈴木方鶴	天真爛漫	昭和47	紙・墨	135.0×272.0	寄附
7	〃	登櫻萬里春	昭和56	〃	135.0×204.0	〃
8	〃	華下第一壺酒	昭和59	〃	〃	〃
9	高橋蒼峰	破戒	昭和55	〃	177.5×90.7	〃
10	〃	鳴瑟	昭和57	〃	177.5×97.5	〃
11	香取秀真	高杯の歌	昭和21	〃	26.4×34.4	購入
12	〃	父母を思う歌	昭和23	〃	24.2×16.5	〃
13	〃	鎌倉の歌	昭和25	〃	68.0×15.8	〃
14	〃	新年同詠林應制歌	昭和29	〃	39.3×47.8	〃
15	〃	林の歌	〃	〃	117.5×30.8	〃
16	〃	如月之・・・	不詳	〃	126.0×12.5	〃
17	〃	般若波羅蜜多心經写経	昭和24	折帖・墨	〃	〃
18	〃	新万葉集所載	不詳	〃	〃	〃

版画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法	
1	牛久健治	天使	E	昭和60	紙・リトグラフ	57.5×41.0	購入

研究資料

番号	資料名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	毛利教武宛高村光太郎はがき	大正8	官製はがき	14.1×8.9	寄附
2	石井林響印譜	不詳	巻子	30.0×248.0	〃
3	香取秀真筆葉書29点		官製はがき		購入
4	香取秀真筆手紙4点		紙・墨		〃
5	香取秀真筆短歌色紙5点		〃		〃
6	香取秀真・立田三朗合作「つつじの歌」	不詳	紙・墨・淡彩	25.5×34.2	〃
7	香取秀真遺品軸一括2点	〃	紙・墨		〃
8	香取秀真宛葉書一括64点		官製はがき		〃

千葉県美術品取得基金購入一覧

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	種別
1	梅原龍三郎	伊豆大仁風景	昭和4	キャンバス・油彩	60.0×50.0	洋画
2	コロ	フォンテンブローの石切場	1835~40頃	〃	24.0×34.0	〃
3	ブルーデル	聖母子	1921	ブロンズ	250.0×91.0×57.0	彫刻
4	南部治夫	時の流れに(相)	平成元	木	120.0×120.0×90.0	〃
5	零駒無藏	過ぎし日のアパート	〃	石	90.0×91.0×60.0	〃

収蔵資料数一覧

(平成3年3月31日現在)

種別	区分	購入	寄附	保管換	合計
日本画		100	119	24	243
洋画		288	331	36	655
彫刻		75	24	10	109
工芸		81	41	9	131
書		25	50	14	89
版画		86	49	3	138
合計		655	614	96	1,365
研究資料		233	1,220	73	1,526

管 理 運 営

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、かつ動的な美の広場を目標として展示・普及活動を行っている。

協議会では、美術館の運営について協議した。

調査研究会議では、美術館利用のあり方について協議した。

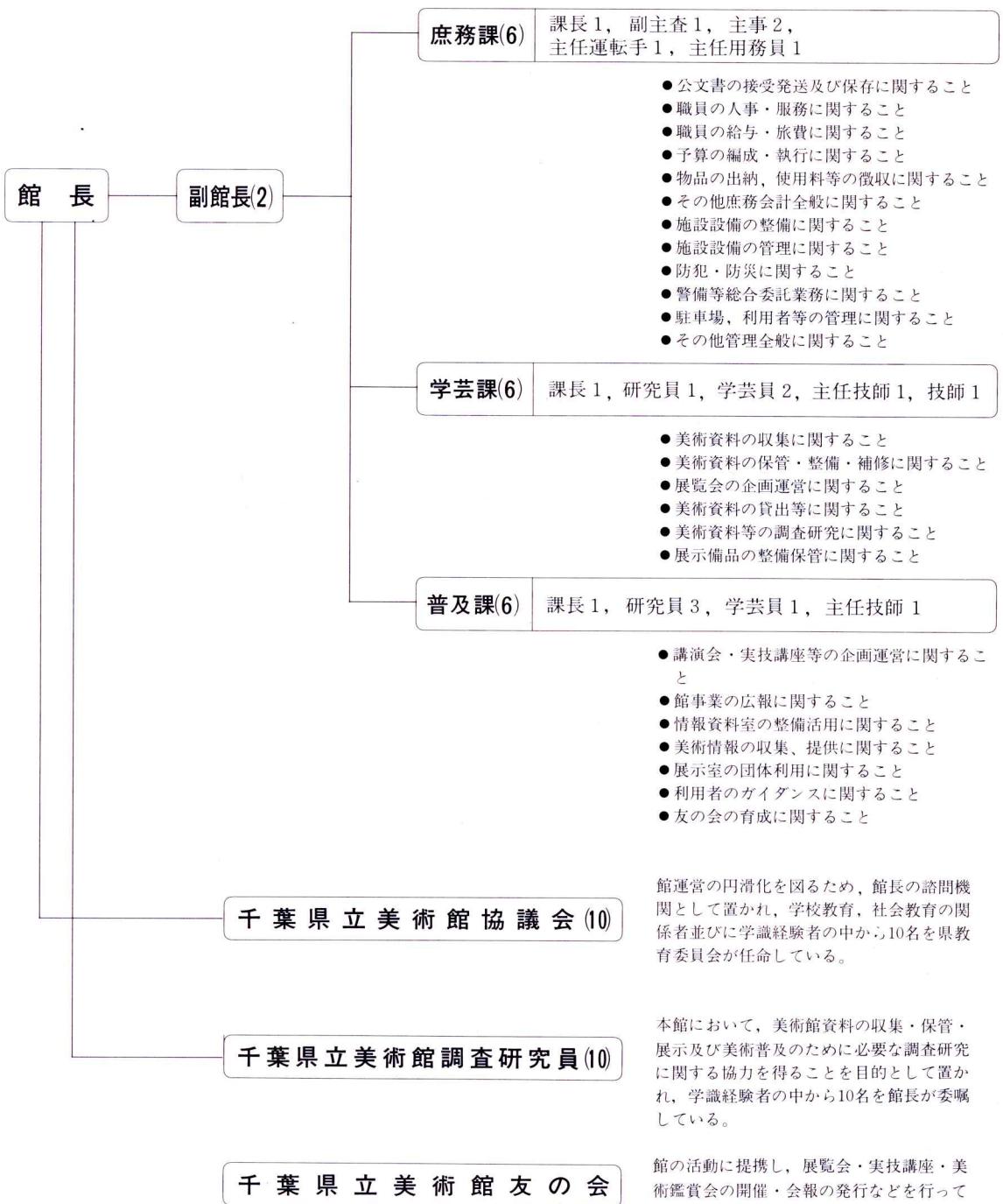
外構整備検討委員会を設置し、外構整備について検討した。

運 営 方 針

- 県民のための美術館として、明るく親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある美術家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

機 構

組織及び事務分掌 (3.3.31現在)



職 員	館 長	竹 内 一 雄	学芸課	米 田 耕 司
	副 館 長	竹 佐 久 間 一 芳 夫	長	田 久 保 司
	〃	小 池 賢 博	学 芸 員	大 久 坂 浩
庶務課	庶務課長	高 浦 栄 一	研 究 員	田 川 秀
	副 主 査	加 藤 貞 美 治	学 芸 員	前 金 公
	主 事	渡 辺 和 子	主 任 技 師	田 松 雅
	〃	豊 田 浩 昌	技 師	中 彰
	主任運転手	篠 原 恒 雄	普 及 課	小 野 子
	主任用務員	長 島 則 子	長	木 喜 夫
	長		研 究 員	尾 吉 正
			學 芸 員	川 博
			研 究 員	村 順
			主 任 技 師	川 子

千葉県立美術館協議会委員

氏 名	役 職	氏 名	役 職
遠 藤 健 郎 (-2.6.30)	画 家	新 城 瑞 璃 (2.7.1-)	千葉ニューオークホテル代表取締役副社長 (千葉県立美術館友の会副会長)
郡 司 幹 雄 (-2.6.30)	千葉県文化財保護審議会委員	須 藤 周 彦 (2.7.1-)	千葉県教育研究会造形部会長
鈴 木 民 三 (-2.6.30)	千葉県立美術館友の会長	戸 田 稔 佑	東京大学東洋文化研究所教授
野 口 貞 子 (-2.6.30)	千葉市婦人部ボランティアグループ連絡員	富 山 秀 男	東京国立近代美術館次長
大 高 好 男 (-2.9.18)	日本放送協会千葉放送局長	長 谷 川 邦	千葉県美術会長
石 崎 朋 夫 (-2.9.18)	千葉県経営者協会専務理事	若 桑 み ど り	千葉大学教養学部教授
垣 畑 利 光	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長	吉 田 稔 (2.9.19-)	日本放送協会千葉放送局長
齊 藤 志 貴 雄 (2.7.1-)	前千葉県立千葉東高等学校長		

千葉県立美術館調査研究員

氏 名	役 職	氏 名	役 職
打 木 純 夫	千葉市立上の台小学校教頭	大 須 賀 久 大	成田市立成田中学校教頭
高 木 正	大栄町立桜田小学校教頭	南 隆 一	横芝町立横芝中学校教諭
藤 江 雅 文	千葉市立作新小学校教諭	石 戸 久 瞬	千葉市立幕張本郷中学校教諭
小 森 はるひ	千葉市立さつきが丘西小学校教諭	岡 野 重 義	千葉県立佐倉高等学校教諭
石 倉 総 子	千葉市立こてはし台中学校教諭	羽 生 智 樹	(元)県立八千代高等学校教諭

予算概要

(単位: 千円)

事 業 名	予 算 額	事 業 概 要
運 営 費	39,158	特別展 2, 企画展 2, 常設収蔵作品展
	3,528	実技講座・講演会の実施等, 館報・年報・事業案内等の発行
	562	資料調査, 研究員会議等
	143,260	施設管理, 設備・機械保守委託, その他運営費
施 設 費	53,000	美術資料, 美術図書, 展示用備品, 視聴覚備品, 図書備品等
	7,648	作品修復, 備品修復
	213,287	展示室空調機改修工事, 収蔵庫1.2冷凍機改修工事, 案内標識改修工事等
合計 460,443 (債務返し 193,687)		

注) ○職員の人権費は含まない。 ○別に資料購入のため基金20億円。

利用状況

入館者数一覧

種別 月	開館 日数	個 人			團 体						人數合計	備 考		
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生					
					人數	團體數	人數	團體數	人數	團體數				
4	26	11,361	388	1,364	125	4	54	1	88	2	13,380			
5	26	12,586	496	2,833	198	6	414	2	519	4	17,046			
6	26	11,752	342	1,852	562	15	26	1	82	1	14,616			
7	26	11,009	364	1,594	456	13	0	0	29	1	13,452	特別展 「石井林蔵をめぐる画家たち」		
8	27	9,413	604	1,644	120	4	0	0	0	0	11,781			
9	26	15,227	1,087	4,979	966	18	0	0	250	2	22,509			
10	22	13,905	668	1,549	596	15	0	0	374	4	17,092			
11	25	13,421	1,839	1,708	763	19	95	1	575	10	18,401			
12	21	15,601	231	9,111	421	7	0	0	113	3	25,477			
1	22	13,266	387	1,919	342	11	0	0	165	1	16,079			
2	24	20,158	949	3,210	241	5	56	1	0	0	24,614			
3	21	28,033	1,959	4,641	233	7	0	0	58	2	34,924	特別展 「マリー・ロー・ランサン」		
計	292	175,732	9,314	36,404	5,023	124	645	6	2,253	30	229,371			

開館以来 総開館日数4,750日 総入館者数2,724,430人

地域別入館者数

(人)

種別 月	開館 日数	県 内		県 外			外 国	
		千	葉 市	そ の 他	東 京 都	そ の 他		
4	26	6,749		5,459		668	504	0
5	26	7,957		7,244		659	1,168	18
6	26	7,507		6,450		416	223	20
7	26	6,419		5,779		542	695	17
8	27	4,812		5,245		733	940	51
9	26	11,689		8,767		861	1,171	21
10	22	7,946		7,625		770	712	39
11	25	9,051		8,323		392	613	22
12	21	6,806		18,120		270	268	13
1	22	8,125		7,229		397	318	10
2	24	12,338		10,853		708	677	38
3	21	17,652		14,865		1,345	1,049	13
計	292	107,051		105,959		7,761	8,338	262

展示室利用団体

太字は県芸術祭関係

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展示 点数
1	第27回全日本綜合書道大展覧会	4. 10~4. 15	書	1,250
2	第14回鳳聲会書作展	4. 17~4. 22	書	105
3	第60郷陽会展	4. 17~4. 22	洋 画	190
4	第17回千葉新協展	4. 24~4. 30	洋 画	85
5	武藏野美大校友会千葉支部展	4. 24~4. 30	洋 画・彫刻・工芸	67
6	第10回千葉美術工芸展	4. 24~5. 6	工 芸	79
7	第16回歩会彫刻展	4. 24~5. 6	彫 刻	41
8	第21回表美展	5. 2~5. 6	表 装・額 装・屏 風	127
9	第8回日中友好書道展	5. 8~5. 13	書	6,204
10	第2回日本童謡の書展	5. 8~5. 13	書	2,631
11	第14回墨の県展	5. 15~5. 20	水墨画・洋画・写 真	359
12	第35回二科会千葉支部展	5. 22~5. 27	洋 画	958
13	第16回貌展	5. 22~5. 27	洋画・彫刻・工芸・写 真	64
14	日本書道ペン字教育会 創立30周年記念選抜展	5. 29~6. 3	書	700
15	第13回千葉一陽展	5. 29~6. 3	洋 画	67
16	第30回千葉市アマチュア美術展	6. 5~6. 10	絵画・書・写 真・彫刻・工芸	829
17	第5回日本画四季展	6. 5~6. 17	日 本 画	69
18	第15回関東全展	6. 12~6. 17	日 本 画・洋 画	191
19	千葉幼児美術展	6. 12~6. 17	絵 画	1,350
20	第12回新槐樹社千葉県支部展	6. 19~6. 24	洋 画・彫 刻・工 芸	56
21	千葉二紀展	6. 19~6. 24	洋 画・彫 刻	91

No.	展覧会名	期間	作品種別	展示点数
22	千葉水彩展	6. 19~6. 24	水彩画	72
23	第37回千葉県書道協会展	6. 28~7. 1	書	389
24	第17回千虹会日本画展	6. 26~7. 1	日本画	32
25	第34回千葉県小・中学校書写展	6. 26~7. 1	書	2,700
26	第18回水彩連盟千葉支部展	7. 3~7. 8	水彩画	60
27	第8回明日を拓く教育美術展	7. 3~7. 8	油彩画・水彩画・工作	2,000
28	第19回千葉市勤労者文化展	7. 3~7. 8	日本画・洋画・書・写真	122
29	第13回精銳展	7. 3~7. 8	洋画	95
30	第22回千葉市水墨画同好会連合会展	7. 10~7. 22	水墨画	516
31	第15回葉美会展	7. 24~7. 29	洋画・写真	48
32	第72回習美会初夏大作展	7. 24~7. 29	日本画・水墨画・洋画	169
33	日本水彩画会第6回千葉県支部展	7. 24~7. 29	水彩画	65
34	第24回漱雲会全国書道展	7. 24~7. 29	書	605
35	第10回ちば産経現代洋画展	7. 31~8. 12	洋画	259
36	第10回春秋書院千葉県書道展	8. 14~8. 19	書	127
37	千葉県市町村職員共済組合文化展	8. 14~8. 19	洋画・書・写真	135
38	第19回写真千葉県展	8. 14~8. 26	写真	242
39	第20回いてふ会彫刻展	8. 14~8. 26	彫刻	57
40	第11回龍峠書道会千葉県人展	8. 21~8. 26	書	514
41	第7回千葉中美展	8. 21~8. 26	日本画・洋画	39
42	第18回千葉市教職員美術展	8. 28~9. 2	日本画・洋画・彫刻・工芸	138

No.	展覧会名	期間	作品種別	展示点数
43	第23回千葉県高校合同写真展	8. 28~9. 2	写真	419
44	第20回新構造千葉支部展	8. 28~9. 2	洋画・彫刻・写真	98
45	第30回白扇書道会展	9. 4~9. 9	書	4,686
46	第13回千葉等迦展	9. 11~9. 16	絵画・版画・写真	58
47	第28回新世紀美術協会千葉支部展	9. 11~9. 16	洋画	70
48	第13回千葉県写真展	9. 11~9. 24	写真	120
49	第40回千葉デザイン展	9. 18~9. 24	デザイン	91
50	第22回千葉現展	9. 18~9. 24	洋画・彫刻	110
51	第6回日本書道学会千葉県連展	9. 18~9. 24	書	285
52	第33回千葉市小中養護学校児童生徒総合展覧会	9. 26~9. 30	絵画・彫刻・工作・その他	5,500
53	千字会書展	10. 2~10. 7	書	85
54	第37回千葉県勤労者美術展	10. 2~10. 7	洋画・書・写真	297
55	第10回二科会写真部千葉支部展	10. 2~10. 7	写真	145
56	第22回ファンシーアン画展	10. 9~10. 14	洋画	111
57	第17回文化書道連合会公募展	10. 9~10. 14	書	660
58	ダネラ・デコパー・ジユ	10. 9~10. 14	工芸	113
59	第42回千葉県美術展覧会(県展)	10. 20~11. 11	日本画・洋画・彫刻・工芸・書	2,306
60	千葉県高校芸術祭 「美術・工芸・書道作品展」	11. 14~11. 25	絵画・工芸・書	1,384
61	第35回こども県展	11. 27~12. 9	絵画	12,000
62	今日の美術を考える会	12. 11~12. 19	絵画・立体	18
63	明るい社会づくり ポスター・コンクール展	12. 11~12. 16	ポスター	1,193

No.	展覧会名	期間	作品種別	展示点数
64	第26回登龍社・宮坂会書作展	1. 8~1. 13	書	451
65	第18回富士百景写真展	1. 8~1. 13	写真	145
66	第18回千葉書壇秀抜・新進展	1. 15~1. 20	書	480
67	千葉市観光絵画と写真コンクール展	1. 22~1. 27	絵画・写真	200
68	第16回子ども造形展	1. 22~1. 27	洋画・彫刻・工芸・その他	1,200
69	第8回千葉県医師会美術展	1. 22~1. 27	絵画・工芸・書・写真	116
70	第24回千葉県老人クラブ作品展	1. 22~1. 27	絵画・彫刻・工芸・書・写真	304
71	千葉大学教育学部美術科卒業制作展	1. 29~2. 3	日本画・洋画・彫刻	42
72	第25回千葉大学学生書道展	1. 29~2. 3	書	104
73	千葉市小中養護学校児童生徒書写展	1. 29~2. 3	書	1,434
74	群鷗書人展	2. 5~2. 11	書	60
75	第6回書星選抜展	2. 5~2. 11	書	270
76	第43回千葉県小中高校書初展	2. 5~2. 11	書	894
77	第14回唱和会書展	2. 13~2. 17	書	53
78	幕張北高校書道卒業制作展	2. 13~2. 17	書	71
79	第16回千葉県民写真展	2. 13~2. 24	写真	328
80	和洋女子大学書道展	2. 19~2. 24	書	66
81	第22回千葉市民美術展	2. 26~3. 17	日本画・洋画・彫刻・デザイン・工芸・書・写真	1,191
82	第38回書星教育部展	3. 19~3. 24	書	1,184
83	第20回千葉県大学美術連盟展	3. 19~3. 24	洋画・彫刻・工芸・その他	81

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下媒塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル—先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、炻器質タイルを型枠代にしてコンクリートと一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2.400mm程度まで積み上げ单管にて固定する。この2.400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に单管を480ピッチに通し固定したが、施工時は、縦方向に单管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防げ満足する状態に仕上った。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルター、の3種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はCAV（定風量型）+VAV（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。V

A V方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源により全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80.000lx以上、30%の時間が50.000lx以上、50%の時間が25.000lx（平均）以上、90%の時間が5.000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50.000lx（薄晴）から5.000lx（曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン（これは、計算値により鉛直面照度60.000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエスチル（透過率53.6%）と黒地のジョーゼット（透過率35%）の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

〈設計及び工事監理者〉

大高建設設計事務所

〈施工者〉

建築：(株)竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業(株)

衛生＝第一管工事(株)

電気＝関東電気工事(株)

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

〈都市計画地域指定〉

用途地域：準工業地域

〈規模・面積〉

敷地面積 33,057.87m²

建築面積 8,777.94m²

延床面積 10,663.57m²

展示棟 6,343.02m²

管理棟 2,818.89m²

県民アトリエ棟1,501.66m²

駐車台数 97台

〈工期及び建設経費〉

(1) 第1期工事 (展示棟) 5,194.59m² (建築面積 5,102.35m²)

○工期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円

本体工事 425,230千円

電気設備工事 79,663千円

空調設備工事 166,493千円

給排水衛生設備工事 28,995千円

外構工事 67,705千円

ガス工事 7,881千円

(2) 第2期工事 (管理棟) 2,274.60m² (建築面積 1,089.50m²)

○工期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円

本体工事 307,500千円

電気設備工事 30,000千円

空調設備工事 79,000千円

給排水衛生設備工事 19,514千円

外構工事 17,786千円

(3) 第3期工事 (県民アトリエ) 1,501.66m² (建築面積 1,449.34m²)

○工期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370,000千円

本体工事 265,300千円

電気設備工事 35,000千円

空調設備工事 56,200千円

給排水衛生設備工事 13,500千円

○工期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円

外構工事 8,000千円

(4) 第4期工事 (第8展示室1,148.43m²・収蔵庫544.29m²) 1,692.72m²

(建築面積1,136.75m²)

○工期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747,500千円

本体工事 476,000千円

電気設備工事 81,000千円

空調設備工事 171,000千円

給排水衛生設備工事 19,500千円

総工事費 2,355.267千円

工期別面積一覧

(単位: m²)

区分	階	1階	2階	塔屋	合計
第1期	322.80	4,753.03	61.00	57.76	5,194.59
第2期	—	1,185.10	1,089.50	—	2,274.60
第3期	—	1,403.15	98.51	—	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	—	1,692.72
合計	338.26	8,474.25	1,793.30	57.76	10,663.57

〈概要〉

建物

【階数】

地下1階、地上2階、塔屋1階建

【高さ】

基礎底: G L - 500m

高さ: G L + 15.20m

【構造】

主体構造: 鉄筋コンクリート造

屋根: 鉄骨造

主鋼材: S S 41及び高張力鋼

コンクリートの種類

A種・普通コンクリート (基礎・地中梁・1階スラブ) $F_c = 210 \text{ kg/cm}^2$

B種・軽量コンクリート (梁・スラブ用・地上部) $F_c = 300 \text{ kg/cm}^2$

C種・軽量コンクリート (地上部軸体でA B以外の梁・壁など) $F_c = 240 \text{ kg/cm}^2$

【外部仕上げ】

外壁: 砥器質タイル、一部コンクリート打放し

屋根: 勾配屋根=アスファルトルーフィンシート、天然スレート3枚葺

陸屋根=アスファルト防水、押えコンクリート、豆砂利打込み

開口部: オーダーメイド自然発色サッシュ、一部型鋼グラファイト処理サッシュ

【内部仕上げ】

展示室: 床=ビニールホモジニアスタイル

床=自然石(北木島御影)円盤摺および本磨(第7室)置敷きタイルカーペット(第8室)

壁=石綿珪酸カルシウム、板下地クロス張り、塗装仕上げ

壁=コンクリート碎り仕上げ(第7室)

天井=岩綿吸音板、塗装仕上げ

天井高=3,240～13,500mm

事務室: 床=ビニールホモジニアスタイル

壁=プラスチック塗装仕上げ

天井=岩綿吸音板塗装仕上げ

天井高=3,400mm

収蔵庫: 床=フローリングブロック

壁・天井=米杉(第1・2室) 桐(第3・4室)

天井高=3,400mm

講堂:床=置敷カーペット

壁=マコレ練付け

天井=クロス張り

第1・第2アトリエ:

床=ビニールアスベストタイル

壁=コンクリート打塗装仕上げ

天井=軟質石綿板

研修室:床=ビニールアスベストタイル

壁=クロス張り

天井=岩綿吸音板

和室:床=玄晶石水磨き、タタミ、檜家甲板

壁=京じゅらく塗

天井=杉柾ベニヤ目透シ、竿縁天井

設備

【電気設備】

受電方式:交流 3相3線式6,000V 50Hz

電話交換方式:64回線デジタル交換機方式

【空調設備】

展示棟=C A V(定風量型)+V A V(可変風量型)方式

管理棟=V A V方式

保管庫=露点再熱制御方式

県民アトリエ棟=各室ハンドリング方式

熱源:空気熱源スクリュー熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水:ポンプ圧送方式、引込み管径75mm

排水:汚水・雑排水合流方式系統(管径300), 雨水系統(管径300)別、公設本管へ放流

【防災設備】

排煙方式:自然排煙、機械排煙(第1, 2, 7展示室)

消化方式:屋外・屋内消火栓、不燃性ガス消火設備(ハロゲン1301)

自家発電:ディーゼル機関直結交流発電機、定格出力100KVA

火災報知設備:P型1級自動火災報知設備

【その他の設備】

防犯設備:ITVカメラ設備、防犯警報装置

昇降機設備:荷物用エレベーター

規模:容量3,000kg、カゴ内法=3,000mm×3,000mm×3,000mm、速度30m/min

展示棟

管理棟

玄関ホール	102.40m ²	身障者用便所	7.92m ²	(1階)	
クローケ	91.80m ²	コントロール室	20.16m ²	第2会議室	22.62m ²
倉庫A	2.70m ²	フィルタ一室	28.92m ²	更衣室	14.83m ²
〃B	〃	工 作 室	31.00m ²	医務室	21.18m ²
第1展示室	437.76m ²	発電機室	25.00m ²	便書庫	22.02m ²
〃2	400.32m ²	電 気 室	123.20m ²	警備員室	43.59m ²
〃3	469.08m ²	ポンプ室	76.80m ²	第1会議室	20.15m ²
〃4	403.20m ²	機 械 室	305.20m ²	倉庫	7.19m ²
〃5	824.19m ²	機 械 室(新)	283.82m ²	湯沸室	5.19m ²
〃6	330.58m ²	高架水槽室	11.46m ²	便所	24.54m ²
〃7	566.56m ²	E.V機械室	27.28m ²	宿直室	34.20m ²
〃8	864.61m ²	E.V廻り	54.56m ²	物置	9.92m ²
食堂	119.52m ²	ダクトスペース	35.68m ²	用務員室	31.83m ²
厨房	36.00m ²	廊下等	123.48m ²	審査室・資料準備室・荷解室	520.68m ²
従業員控室	17.28m ²	合計 ① 6,343.02m ²		消毒室	31.79m ²
食堂ホール	49.20m ²			資料倉庫	124.25m ²
ミュージアムショップ	12.00m ²			荷解梱包保管室	52.67m ²
ロビ	335.52m ²			荷扱人室	21.94m ²
第1休憩室	23.04m ²			機械室	51.74m ²
〃2	〃			廊下等	123.52m ²
〃3	〃				
便所A	30.24m ²			小計	1,183.85m ²
〃B	23.76m ²				

(2階)

館 長 室	33.27m ²
副 館 長 室	23.42m ²
第 1 応 接 室	14.67m ²
" 2 "	14.55m ²
庶 務 課 室	112.34m ²
会 議 室	43.84m ²
学 芸 課 室	195.32m ²
学 芸 相 談 室	23.91m ²
研 究 工 作 室	216.49m ²
写 真 ス タ ジ オ	54.30m ²
器 材 室	6.74m ²
暗 室	12.19m ²
第 1 収 藏 室	184.40m ²
" 2 "	42.81m ²
" 3 "	544.29m ²
E. V. 前 室	16.39m ²

便 湯	所	21.50m ²
沸 室 A		3.24m ²
" B		6.87m ²
廊 下 等		60.94m ²
ダ ク ト ス ペ ー ス		
そ の 他		3.56m ²
小 計		1,635.04m ²
合 計 ②		2,818.89m ²
* 展示室総面積		4,296.30m ²
* 収蔵庫総面積		771.50m ²

ホ ー ル 側 便 所	29.97m ²
情 報 資 料 室	172.77m ²
情 報 資 料 室 倉 庫	4.70m ²
事 務 室	22.76m ²
研 修 室	74.70m ²
研 修 室 倉 庫	4.23m ²
第 1 ア ト リ エ	155.70m ²
" 2 "	184.31m ²
" 3 "	95.47m ²
ア ト リ エ 側 便 所	20.77m ²
荷 解 室	25.65m ²
窯 場	27.17m ²
窯 場 倉 庫	6.66m ²
ホ ー ル そ の 他	352.67m ²
合 計 ③	1,501.66m ²
総 合 計	10,663.57m ²
(①+②+③)	

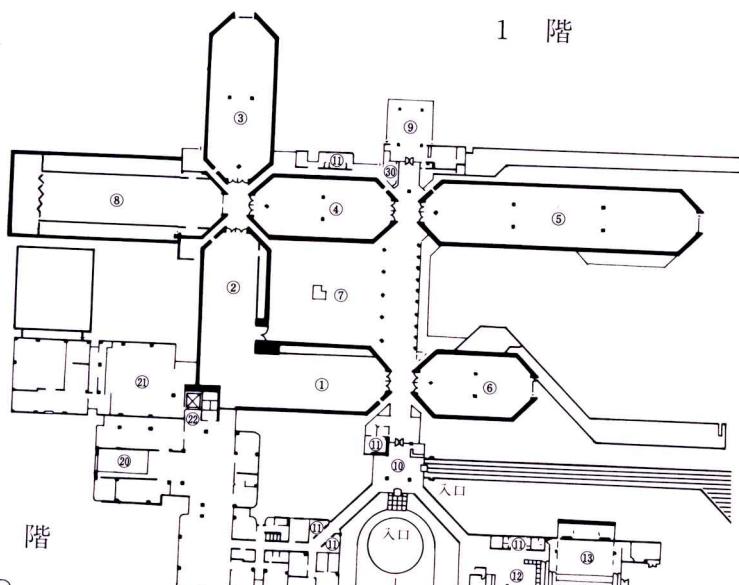
県民アトリエ

1 F 機 械 室	25.92m ²
講 堂 倉 庫	8.64m ²
講 堂	259.24m ²
コ ン ト ロ ー ル 室	30.33m ²

内 容

- ①～⑧ 展示室
- ⑨ 食堂(44席)
- ⑩ 玄関ホール
- ⑪ トイレ
- 男子用 6 カ所
- 女子用 6 カ所
- 身体障害者用 2 カ所
- ⑫ ホール
- ⑬ 講堂(200人)
- ⑭ 情報資料室
- 火～金 12:30～16:30 ⑯ 収蔵庫
- ⑮ 研修室(40人)
- ⑰ ミュージアム ショップ
- ⑯～⑰ 実技室
- ⑲ 窯場
- ⑳ 搬出入口
- ㉑ 機械室
- ㉒ エレベーター
- ㉓ 館長室
- ㉔ 副館長室
- ㉕ 庶務課
- ㉖ 会議室
- ㉗ 学芸課・普及課
- ㉘ 研究工作室
- 火～金 12:30～16:30 ㉙ 収蔵庫
- 火～金 12:30～16:30 ㉚ 駐車場 (97台)
3,020m²

1 階



2 階

駐車場 (97台)
3,020m²

案内看板(道路標識)市内 7 カ所

関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

（休館日）

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に当たるときは、その翌日）

二 国民の祝日に当たるときは、その翌日

三 年始休館日 1月1日から1月4日まで

四 年末休館日 12月26日から12月31日まで

五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することができる。

（入館の制限）

第4条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 特別展覧会を観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しないもの

二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳未満たない者

三 でい醉者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

（観覧券等）

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により、館長に申し込まなければならない。

（禁止行為）

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。

二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。

三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。

四 その他、他の入館者の妨げになるような行為をすること。

（損害の賠償）

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償せざることがある。

（委任）

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

（趣旨）

第1条 県が徴収する使用料及び手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するものほか、この条例の定めるところによる。

（使用料等の徴収）

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するものほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

（種類及び額）

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

（中略）

（徴収の特例）

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一（抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区分	単位	額
博物館	入館料	特展覧会	1人1回につき	510円以内

（以下省略）

3. 使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

（徴収の特例）

第7条の2 条例第8条の2の規程による規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

別表第六（抜粋）

行事等	施設
県民の日（6月15日）。 65歳以上の者、身体障害者（介護者を含む。）又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

平成3年度主要事業

企画展

常設収蔵作品展

4月2日(火)～3月31日(火)

本館が所蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の中から、3期にわけて各テーマ等に基づき展覧するほか、新たに収蔵された作品を紹介します。(準備等のため開催されない期間や、開催期間中の展示替有り)

房総の美術家シリーズ(21) 安藤信哉展

7月27日(土)～9月8日(日)

房総の美術家シリーズは、房総に生まれ、あるいは定住して、近代日本美術界において活躍し、美術振興のために貢献した美術家の再発見と顕彰をめざしています。

今年度は、夷隅郡大原町に生まれ、日展や日本水彩画会などで活躍し、美術教育にも力を注いだ洋画家の安藤信哉(1897～1983)に焦点をあて、回顧します。

第5回現代日本具象彫刻展

2月1日(土)～2月23日(日)

平成元年度第4回展に引き続き、「21世紀への飛躍」を主題として、彫刻作品を全国公募し、入賞・入選作品を展覧するとともに、現代彫刻の動向の一端を紹介します。

第15回千葉県移動美術館

旭市民会館

10月30日(木)～11月12日(火)

鴨川市民ギャラリー

11月15日(金)～11月25日(日)

優れた美術作品を、より多くの県民の方々に鑑賞していただきため、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野から館収蔵作品を中心に県内2会場で開催します。

特別展

英國水彩画展

6月15日(土)～7月21日(日)

水彩画の持つみずみずしさに魅せられる日本人は多く、特に英國水彩画は、明治以降の我が国の水彩画の発展に少なからず寄与しています。

英國水彩画は、カズンズ父子、ガーティン、ターナー等に培われ、19世紀中頃に黄金期を迎えました。また、水彩画の透明感と輝きは、印象派の誕生にも大きな影響を与えたと言われています。

本展では、英國水彩画の有名なコレクターであるヒックマン・ベイコンのコレクションとフィッツウイリアム美術館所蔵の中からターナーをはじめ18～19世紀の代表的な英國水彩画家の作品を紹介します。

近代陶芸のモダニズム

10月5日(土)～11月10日(日)

昭和2年帝展第4部(美術工芸)の設置は、陶芸の近代化を促進する大きな契機となり、また同年、関東の周辺の陶芸家によって組織された「東陶会」は、從来の西日本、特に京都を中心とした陶芸界に対し、新風を吹き込むとともに優れた陶芸家たちを輩出し、後の陶芸界の発展の一翼を担いました。

千葉県においては、横山朝陽、宮之原謙、土肥刀泉、山本正年らがこれに参加し、本県陶芸界の基礎を築くとともに近代陶芸の発展に大きな足跡を残しました。

本展では、戦前の「東陶会」の陶芸家を中心に紹介するほか、明治時代にその活動の基礎を築いた陶芸家や「東陶会」と同時代に活躍した陶芸家の作品をも併せて展示し、陶芸の近代化を再確認します。

講演会 特別展、企画展に関連し、年5回開催

実技講座

No.	講 座 名	開設日時 (12:30~16:30)	日数	定員	講 師
1	日本画講座	6月5日(木).6日(木).7日(金).8日(土).11日(火).12日(水) 13日(木).14日(金).15日(土).18日(火).19日(木).20日(木)	12(8)	20	齊藤 憲
2	洋画講座 1	6月18日(火).19日(水).20日(木).22日(土).23日(日) 25日(火).26日(水).27日(木).29日(土).30日(日)	10(7)	30	熊谷 文利
3	洋画講座 2	7月10日(木).11日(木).12日(金).13日(土).17日(水) 18日(木).19日(金).20日(土).24日(木).25日(木)	10(7)	30	松沢 茂雄
4	洋画講座 3 (水 彩)	1月22日(木).23日(木).24日(金).29日(木).30日(木).31日(金) 2月5日(木).6日(木).7日(金).8日(土)	10(7)	30	戸田 健夫
5	版画講座	5月16日(木).17日(金).18日(土).21日(火).22日(水).23日(木) 24日(金).25日(土).28日(火).29日(木).30日(木).31日(金)	12(7)	20	増田 陽一
6	彫刻講座 (木 彫)	8月2日(金).3日(土).4日(日).6日(火).7日(木).8日(木) 9日(金).11日(日).21日(木).22日(木).23日(金).25日(日)	12(8)	15	渋谷 三朗
7	陶芸講座	7月3日(木).4日(木).5日(金).6日(土).9日(火).18日(木) 20日(土).24日(木).27日(土)	9(5)	30	明石 昇
8	金工講座	1月28日(火).29日(木).30日(木).31日(金).2月4日(火).5日(水) 6日(木).7日(金).8日(土).11日(火).12日(木).13日(木)	12(8)	15	小林 正利
9	書芸講座	12月4日(木).5日(木).6日(金)	3(3)	25	中村 象閣

() は講師の指導日数

平成3年度職員

館 長	福 田 誠	普及課
副館長	小 池 賢 博	普及課長
庶務課		小 野 禮 子
主査	高 浦 英 一	研究員
〃	加 藤 貞 美 治	〃
副主査	葛 生 久 雄	研究員
主事	渡 辺 和 子	研究員
〃	安 西 寿 子	主任技師
主任運転手	篠 原 恒 雄	神 尾 吉 夫
主任用務員	長 島 則 子	藤 川 正 司
学芸課		中 村 博 史
学芸課長	米 田 耕 司	中 村 博 史
学芸員	大 久 保 守 浩	相 川 順 子
研究員	田 坂 浩	
学芸員	前 川 公 秀	
主任技師	金 田 雅 成	
技師	中 松 れ い	

利 用 案 内

開館時間

開館時間 午前9時から午後4時30分まで

休館日

- ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
- ・年末年始（12月26日～1月4日）
- ・展示替え等のため、必要があるとき。

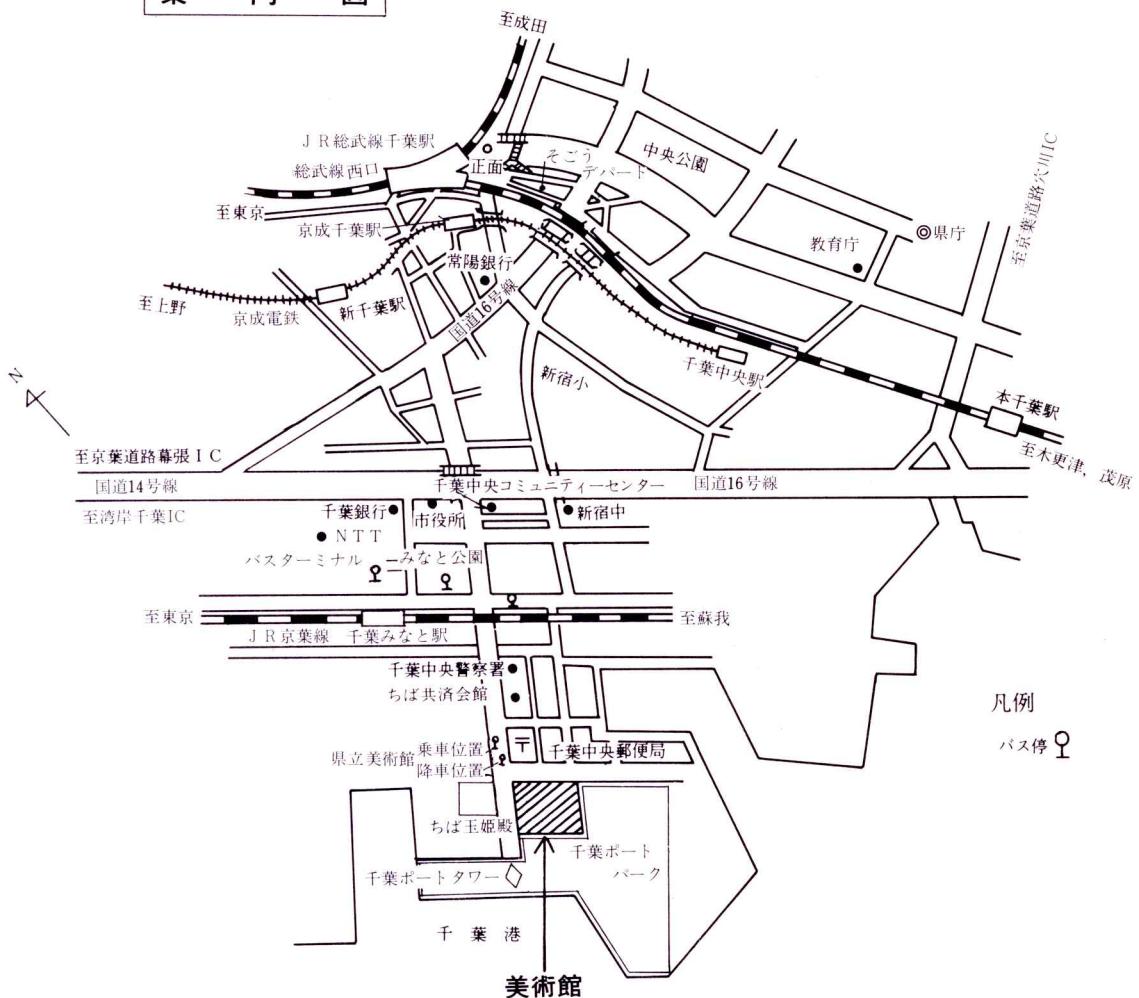
観覧料	・無料（ただし、特別展は有料）
団体観覧	・団体で来館されるとき、あらかじめ御連絡いただければ館の概要や事業等のガイダンスをいたします。

交 通

★ JR 総武線千葉駅下車

- 徒歩23分。
- バス⑯番(千葉そごう前)のりばから
「千葉ポートタワー」行にて15分、
「県立美術館前」下車、徒歩1分。

案 内 図



千葉県立美術館年報（平成2年度）

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央港1-10-1

TEL 0472(42)8311(代表)

印刷 有限会社 正文社

